

総務委員会資料

所管事務の調査（報告） 新たな総合計画策定作業状況について

- | | | |
|------|----|--|
| 資料 | 1 | 新たな総合計画策定作業状況について |
| 資料 | 2 | 新たな総合計画及び行財政改革に関する計画の策定に向けたスケジュール（案） |
| 資料 | 3 | 有識者会議・市民検討会議の流れ（案） |
| 資料 | 4 | 新たな総合計画のポイント |
| 資料 | 5 | 新たな総合計画（基本構想・基本計画・実施計画）の冊子イメージ |
| 参考資料 | 1 | 新たな川崎の未来を考える市民検討会の取組 |
| 参考資料 | 2 | 新たな総合計画の策定に向けた区民祭等の場を活用した市民意見聴取（「まちづくりカフェ」）の実施結果について |
| 参考資料 | 3 | 平成26年度第1回かわさき市民アンケート概要版 |
| 参考資料 | 4 | かわさきの未来を考える市民フォーラム開催結果概要 |
| 参考資料 | 5 | 川崎市総合計画市民検討会議 第1回全体会 開催概要 |
| 参考資料 | 6 | 川崎市総合計画市民検討会議 第1部会 開催概要 |
| 参考資料 | 7 | 川崎市総合計画市民検討会議 第2部会 開催概要 |
| 参考資料 | 8 | 川崎市総合計画有識者会議 第1回会議 開催結果概要 |
| 参考資料 | 9 | 川崎市総合計画有識者会議 第1回ラウンドテーブル 開催結果概要 |
| 参考資料 | 10 | 川崎市総合計画有識者会議 第2回ラウンドテーブル 開催結果概要 |

平成27年2月6日
総合企画局

新たな総合計画策定作業状況について

(1) 市民意見の聴取等について

新たな総合計画の策定にあたっては、市民との対話を基本に現場の声を捉えながら検討を進めていくこととしており、無作為抽出市民によるワークショップ（「川崎の未来を考える市民検討会」）をはじめとした取組を進めてきたところです。これまでに実施した取組の概要や、市民の討議状況、寄せられた主な意見等は次のとおりです。

① 無作為抽出市民によるワークショップ （川崎の未来を考える市民検討会）……参考資料1

目的：意見聴取の第一段階として幅広い市民意見を聴取することを目的に実施
対象：無作為抽出した各区の市民600人（7区合計4,200人）のうち、参加を希望した各区30人程度

- 開催日：川崎区[7月5日（土）・第4庁舎研修室]
- 幸区 [7月21日（月・祝）・幸区役所会議室]
- 中原区[8月23日（土）・エポックなかはら]
- 高津区[8月9日（土）・高津区役所会議室]
- 宮前区[7月20日（日）・宮前区役所会議室]
- 多摩区[8月31日（日）・多摩区役所会議室]
- 麻生区[8月10日（日）・麻生区役所会議室]



実施方法：2つのワークショップ手法（「ワールドカフェ（午前）」・「グループワーク（午後）」）を用い、参加者の意見を「広く」また、「掘り下げて」聴取するように実施した。「ワールドカフェ」（午前）では「区の良いところ」、「区の問題点」、「10年後のまち」といった3つのテーマについて席替えをしながら意見交換を行った。「グループワーク」（午後）では区ごとの現状や課題をテーマに意見交換を行った。

参加者数：180人（7区合計）

【各区のワークショップで共通して多く出された意見】

- 市の施策や取組等についての情報が市民に届いていないという課題がある。単にホームページに情報があるということでは市民に情報は届かない。人と人とのつながりによる情報伝達なども含め、これからの時代にあったPRの工夫が必要である。
- 高齢者のスキルを地域で活用する。特に子育て世代に向けたシニアの人材活用、新たに働き活躍できる場づくり、多世代交流の場や機会の充実が必要である。
- 川崎市のイメージを向上させるために、市内・市外それぞれに適した手法によるPRが必要である。

② 区民祭等における展示(まちづくりカフェ)……参考資料2

目的：新たな総合計画の策定に向けて、策定に向けた基本的な考え方や策定状況を周知するとともに、幅広い市民に計画づくりに参加していただくことを目的に実施

対象：来場する一般市民

- 開催日：川崎区[11月2日（日）・市民祭り（富士見公園）]
- 幸区 [10月18日（土）・幸区民祭（幸区役所）]
- 中原区[10月19日（日）・中原区民祭（等々力緑地）]
- 高津区[7月27日（日）・高津区民祭（大山街道）]
- 宮前区[10月26日（日）・宮前区民祭（宮前区役所）]
- 多摩区[10月18日（土）・多摩区民祭（生田緑地）]
- 麻生区[10月12日（日）・麻生区民祭（麻生区役所）]

実施方法：各会場にブースを設け、策定に向けた基本的な考え方や策定状況をご説明するとともに、無作為抽出市民によるワークショップでの意見を参考に、地域課題と解決のアイデアを示したパネルを用意し、区民祭等に来場する市民が共感する項目にシール投票を実施した。

参加者：8,289人（シール投票者のみ集計、7区合計）



【シール投票で投票数の多かったテーマ】

- 川崎区：総合的な子ども支援の推進（625票）
- 幸区：総合的な子ども支援の推進（235票）
- 中原区：総合的な子ども支援の推進（759票）
- 高津区：地域性に配慮した災害対策の推進（168票）
- 宮前区：総合的な子ども支援の推進（716票）
- 多摩区：高齢社会における生涯を通じた健康づくり（381票）
- 麻生区：高齢化の進行と誰もが生き生きと暮らせる地域づくり（613票）

③ 各団体の会合等における出前説明会

計画策定の早い段階から市民や団体の意見を幅広く聴取することを目的に、新たな総合計画策定に向けた基本的な考え方など策定方針の概要について、出前説明会を開催

実施団体：川崎商工会議所

川崎市医師会

川崎市社会福祉協議会障害者部会

全町内会連合会

区（地区）町内会連合会

区民会議

区PTA連絡協議会

区地域教育会議

※H27.1.23
現在

等71団体（御参加いただいた人数：延べ1,373人）

④ 市民アンケートの実施……………参考資料3

目的：川崎市のイメージや魅力についての現状認識や、川崎市が目指すべき方向性についての市民意識を把握することを目的に実施

調査対象：川崎市在住の満20歳以上の男女個人（3,000人）

標本抽出：住民基本台帳からの層化二段無作為抽出

調査方法：郵送法

調査期間：平成26年7月17日（木）～8月8日（金）

有効回収数：1,219標本

有効回収率：40.6%

調査項目：川崎市のイメージ、川崎市の魅力、これからの10年で川崎市が目指すべき方向性・都市像、川崎市の今後の財政運営の方向性、川崎市の事業の見直しを進める中でも、特に継続すべき事業・サービス

【調査結果の概要】

○川崎市のイメージは「良い」と「まあまあ良い」を合わせた＜良い＞が5割を超えている。（H15調査から27.7ポイントアップ）

○川崎市の魅力について「そう思う」の割合が最も高いのは、「都心にアクセスしやすい立地である」（83.3%）。「買い物など日常生活が便利である」「公共交通の利便性が高い」など生活の利便性に関わる項目のほか、「良質な水道水を提供している」「下水道が整備されている」など上下水道に関わる項目が上位を占めている。

○川崎の目指すべき方向性・都市像について上位3位に入った項目は、「防災、防犯など安全・安心な暮らしのできる都市」（66.6%）、「子育てがしやすく、子どもが健やかに成長できる都市」（52.2%）、「社会的に支援が必要な人（高齢者、障害者など）を支え合う都市」（42.2%）である。

⑤ 川崎の未来を考える市民フォーラム……………参考資料4

目的：川崎市の現状や課題を市民と共有し、新たな総合計画の策定に必要なビジョンや考え方を市民とともに考えることを目的に実施

日程：11月8日（土）午後・高津市民館

内容：大ホールにおけるシンポジウム（新たな総合計画策定に向けた市長挨拶、基調講演「超高齢社会を見据えた地域づくり」、パネルディスカッション）のほか、会場内展示による情報発信やシール投票による意見聴取 など。

参加者数：来場者約800人、シンポジウム参加者約300人



福田市長からは、シンポジウムの冒頭で、会場に詰めかけた約300人の市民に挨拶し、待機児童の解消・中学校完全給食の導入に向けた取組状況や、少子高齢化・厳しい財政状況などの課題に触れたうえで、「本市は多くのポテンシャルを持っている。東京オリンピック・パラリンピックの開催や、10年後の市制100周年などを見据え、『最幸のまち かわさき』の実現に向けて取り組んでいきたい」と、新たな総合計画への基本的な考え方を説明しました。



慶應義塾大学の田中滋名誉教授の基調講演では、健康寿命後の余命の延伸や人口減少・少子高齢化により、このままでは介護保険をはじめとした日本の制度が立ち行かなくなる可能性を指摘したうえで、医療や介護、行政、市民などの連携による、支え合いの「地域包括ケアシステム」の重要性をわかりやすく説明し、地域包括ケアシステムの構築に向けて、「それぞれの主体が理念（ビジョン）を共有し、それぞれが覚悟を持って取り組んでいく必要がある」と、参加した市民に訴えかけました。



（左から）
園田 真理子 明治大学教授
磯崎 初仁 中央大学教授
平尾 光司 昭和女子大学学事顧問

パネルディスカッションでは、川崎の未来について分野を越えた議論を行いました。明治大の園田先生からは、「まち」は30年も経てば高齢化するので、世代が交じり合う工夫が必要という示唆がありました。

中央大の磯崎先生からは、これからは行政の施策の成果ではなく、市民の生活の変化から見た成果が問われ、そのような視点での優先度の選択が必要との示唆がありました。

昭和女子大の平尾先生からは、少子高齢化で全国的に活力が失われる中でも、工都100年の歴史の上に蓄積した技術や人材を活かしてイノベーションで対応できる力が川崎にはあるという示唆がありました。

このような議論を踏まえて、福田市長からは、「超高齢社会を見据えて、多世代が交流しながらいきいきと暮らせる『安心のふるさとづくり』を進めるとともに、先端研究機関や世界的企業、さらには多彩な技術を持つ中小企業が集積する川崎の特徴を活かした『力強い産業都市づくり』をバランスよく進めていきたい」と、市政運営の基本的な考え方の説明がありました。

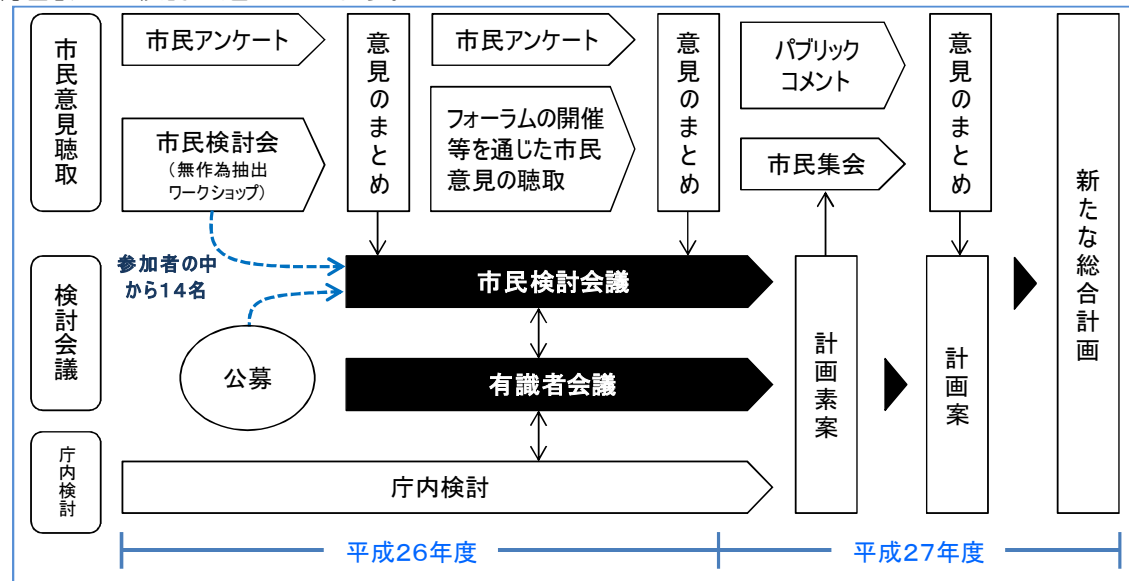
ほかにも、川崎市制90年のあゆみを写真と映像など、来場者が楽しめる工夫を凝らした、さまざまな展示を行いました。

(2) 有識者会議・市民検討会議における検討状況

これからの川崎の目指すべき方向性や取組を明らかにする「新たな総合計画」の策定にあたり、専門的な意見や助言をいただく場として、「川崎市総合計画有識者会議」を設置しました。

「川崎市総合計画有識者会議」では、それぞれの政策分野の重点テーマを中心に検討を行います。また、新たなアイデア等を創造する場として、ゲストアドバイザー等を招いた「ラウンドテーブル」を各回の会議と並行する形で開催しています。

併せて、別途設置する「川崎市総合計画市民検討会議」と検討内容を共有しながら、新たな総合計画の検討を進めています。



①市民検討会議について……………参考資料5～7

市民検討会議は市民21名とコーディネーター(学識経験者)1名の計22名で構成されています。内訳は以下のとおりです。

- 公募市民……………7名
- 無作為抽出した市民による「川崎の未来を考える市民検討会」参加者…14名
- コーディネーター(中央大学法学部教授・川崎市在住 磯崎初仁氏)…………1名
- ※20代～70代の市民。各区概ね均等な人数で、男性11名・女性10名(コーディネーターを除く)

②有識者会議について……………参考資料8～10

氏名(敬称略)	分野	役職等
涌井 史郎(座長)	ランドスケープ・環境	東京都市大学環境学部教授
出石 稔(副座長)	地方自治・地方行財政・コミュニティ	関東学院大学副学長・法学部教授
秋山 美紀	社会福祉・ソーシャルデザイン	慶應義塾大学環境情報学部准教授
垣内 恵美子	文化・教育	政策研究大学院大学政策研究科教授
中井 検裕	都市計画・交通計画	東京工業大学大学院社会理工学研究科教授
平尾 光司	地域経済・産業振興・イノベーション	昭和女子大学学事顧問

有識者会議におけるこれまでの意見のポイント

有識者会議からは、様々な専門的見地からの意見をいただいているが、特に、次の3つのポイントを各回での議論の共通点として捉えている。

I
ポイント

少子高齢社会における“まちの発展”

少子高齢・人口減少社会にあつては、量より個人の豊かさを深め、笑顔できるような、住民の視点に立った大胆な思考転換が必要である。さらに、川崎のポテンシャルを活かして、イノベーションで、“まちの発展”を支えるチャレンジが必要である。

キーワード
チャレンジ

II
ポイント

“地域包括ケアシステム”の構築に向けて

地域包括ケアシステムの構築には、市民、行政、医療・介護関係者などが理念を共有し、そのシステムの一員としての覚悟が必要である。さらに、地域の文化や歴史、人材等、地域資源にも配慮しながら、地域の仕組みづくりを進める必要がある。

キーワード
覚悟

III
ポイント

“ダイバーシティ”の実現

ダイバーシティ(多様性)の実現には、トランス(寛容さ)が必要であるとともに、障害の有無などに関わらず、若い世代が格好いと思えることが大事で、それぞれが混じり合うことが重要である。東京オリンピック・パラリンピックの開催と「意識をデザイン」する考え方がコラボレートした取組が進められるとすばらしい。

キーワード
多様性

市民検討会議における意見のポイント

市民検討会議からは、多くの市民目線での意見をいただいているが、特に、次の4つのポイントを各回での議論の共通点として捉えている。

多世代交流の場づくり

- ★高齢者と子ども・若者をつなぐ世代を超えた“ナナメの関係づくり”が必要である。
- ★多世代が気軽に集まれ交流・相談できる「伴走型」の環境づくりが必要である。
- ★支援が必要な人を地域で支えるため、日頃のコミュニケーションづくりなど、多様な市民が支え合うしくみづくりが必要である。

人材や資源の有効な活用

- ★元気な高齢者のスキルや経験が発揮できる出番を地域で創出する必要がある。
- ★川崎の魅力やポテンシャルを最大限に活かしながら様々な取組を推進していく必要がある。
- ★市内のプロ人材や地域人材、自然資源や既存の地域資源を有効に活用しながら取組を推進していく必要がある。

家庭・地域・行政などが共に連携して

- ★家庭・地域・行政が、それぞれの役割を果たしながら、共に連携をしていく必要がある。
- ★大学や民間の企業など、多様な主体との連携をしたがら取組を進めていく必要がある。
- ★情報共有には、自分で知ろうとする意識が大切であり、地域のコーディネーターも必要である。

効果やメリットの見える化でリアルに実感

- ★子どもの頃から働く喜びや意味をリアルに実感できる場や取組の推進が必要である。
- ★取組を進めるためには、その効果やメリットを“見える化”していく必要がある。
- ★知られていない情報の発信の工夫や内外への川崎のまちの魅力などのPRが必要である。

(3) 検討が先行している分野について

〔②身近な地域で支え合うしくみの構築〕

【策定方針における方向性】

- 今後、急速に高齢者が増加する中、平均寿命の伸長に伴い介護が必要な高齢者も増えることから、高齢者が健康寿命を延ばし元気で暮らし続けられる取組を推進します。
- また、増加するひとり暮らしや高齢者夫婦、障害者などが可能な限り、住み慣れた地域で生活し続けられるような、包括的な支援・サービス提供体制の構築を進めます。

【分野別計画における基本的な方向性】(「地域包括ケアシステム推進ビジョン(案)」抜粋)

基本理念	川崎らしい都市型の地域包括ケアシステム構築による誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域の実現		
5つの基本的な視点	意識の醸成と参加・活動の促進	『地域における「ケア」への理解の共有とセルフケアの意識の醸成』	
	住まいと住まい方	『安心して暮らせる「住まいと住まい方の実現』』	
	多様な主体の活躍	『多様な主体の活躍による、よりよいケアの実現』	
	一体的なケアの提供	『多職種が連携した一体的なケアの提供による、自立した生活と尊厳の保持の実現』	
	地域マネジメント	『地域全体における目標の共有と地域包括ケアをマネジメントするための仕組みの構築』	
主な関連計画	いきいき長寿プラン(高齢者)	ノーマライゼーションプラン(障害者)	健康づくり21(保健・健康)
	地域医療計画(医療)	地域福祉計画(地域福祉)	子ども・子育て支援事業計画、教育プラン など

【これまで頂いた主な意見】

〔市民検討会議〕

- **元気な高齢者の出番を地域で創出するしくみづくり** (「元気な高齢者のスキルや経験が発揮できる出番を地域で創出することや、社会的な担う役割をつくること、取組の効果・メリットが見える化していくことが必要である。」など)

〔有識者会議〕

- **「地域包括ケアシステムの構築」には、首長や関係者の理念の共有と覚悟** (「地域包括ケアシステムの構築には、市民、行政、医療・介護関係者などの理念の共有とそれぞれがシステムの一員としての覚悟が必要。人材等の地域資源など地域の実情に合わせたしくみづくりをすることが必要である。」など)

〔③子育て環境の整備〕

【策定方針における方向性】

- 少子化が進行する中、子育ての不安を解消し、安心して子どもを産み、育てられる地域社会の構築が求められています。
- また、女性の就業率の上昇から、核家族の共働き世帯も増えており、多様な子育てニーズに適切な対応を図るとともに、結婚から出産・育児までのライフステージに応じた子ども・子育て環境の整備を進めます。

【分野別計画における基本的な方向性】(「子ども・子育て支援事業計画素案」抜粋)

基本理念	子どもたちの笑顔があふれるまち・かわさき		
8つの基本的な視点	一人ひとりの子どもを尊重する視点	「ワーク・ライフ・バランス」を実現する視点	
	次代の親を育む視点	すべての子どもと家庭を支援する視点	
	親育ちの過程を支援する視点	子ども・子育て支援の量・質両面を支援する視点	
	地域社会全体で子ども・子育てを支援する視点	地域の実情に応じた視点	
	子どもの権利を尊重する社会づくり	子育てを社会全体で支える環境づくり	乳幼児期の保育・教育の環境づくり
基本目標	親と子が健やかに暮らせる社会づくり	子育てを支援する体制づくり	子どもと子育てにやさしいまちづくり

【これまで頂いた主な意見】

〔市民検討会議〕

- **家庭で教え、地域や多世代で支える「伴走型」の環境づくり** (「子育てしている親や子どもに寄り添って、その多様な状況に応じて「伴走」するような地域や行政が支えるしくみづくりが重要である。」など)
- **多世代が交流し、気軽に集まり相談できるふるさとづくり** (「子育てをサポートしたいと思うベテラン世代もあり、心のよりどころとなる「ふるさと」が必要であり、子育てを気軽に相談できる場を地域と行政がいかに形成していくかが重要である。」など)
- **子どものころから働くよろこびや価値観をリアルに感じられる学びの機会づくり** (「働く喜びや仕事に対するやりがいを見つける機会をつくるため、働くことをリアルに感じる情報提供や体験機会が必要であり、家庭・地域・行政が横断的に取り組む必要がある。」など)

〔④未来を担う人材の育成〕

【策定方針における方向性】

- 変化の激しい社会の中で、誰もが多様な個性、能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことができるよう、社会的自立に必要な能力・態度を養うとともに、個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かし、ともに支え、高め合える社会をめざし、共生・協働の精神を育みます。
- こうした取組により、夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築きます。

【分野別計画における基本的な方向性】(「かわさき教育プラン第1期実施計画素案」抜粋)

基本理念 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く

基本目標

自主・自立

変化の激しい社会の中で、誰もが多様な個性、能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことができるよう、将来に向けた社会的自立に必要な能力・態度を培うこと

共生・協働

個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かし、ともに支え、高め合える社会をめざし、共生・協働の精神を育むこと

主な取組

キャリア在り方
生き方教育の推進

総合的な学力
向上策の実施

児童支援
コーディネーターの
専任化の推進

中学校完全給食
実施に向けた取組

地域の寺子屋
推進事業

学校施設長期保全
計画の推進

など

【これまで頂いた主な意見】

〔市民検討会議〕

- 川崎市の資源や魅力を最大限に生かし、家庭・地域・行政が連携して、主体性・創造性を育む環境づくり（「市にはハイテク企業や文化芸術などの魅力的な資源がたくさんあるため、これらを最大限に活かして子どもたちが将来こうなりたい、こういう仕事に就きたいというビジョンや希望を育む体験の場を提供することが重要」など）
- 地域の色々な人材が学校教育にかかわる機会づくり（「学校だけでなく、プロ人材、地域の高齢者、企業人、ボランティア等の地域のいろいろな人材が学校教育に関わる機会をつくるのが重要」など）
- 学力・人間力の向上と自尊心としつけを身につけるカリキュラム・学校運営の実現（「せめて小学校は「100%わかる」を目標にしたい。多様な子どもの状況に応じ、学力・人間力の向上に向けて、地域・学校が一体となって取り組む必要がある。」など）

(4) 今後、検討を進める分野について

以下の内容については、今後市内における検討を引き続き進めるとともに、市民検討会議・有識者会議等で検討を進めていきます。

※内容は策定方針時点の方向性です。

【①災害から生命を守る】

- 災害から市民の生命や財産を守り、安心して暮らすことができる、災害に強いしなやかなまちづくりを推進するため、発生した場合に影響が最も大きい地震を想定した被害想定調査の結果をもとに減災目標を設定するなど、市民の生命・財産を守るため、防災・減災対策の強化に取り組みます。
- また、災害対策における行政の取組には限界があることから、地域や企業などの取組を支援するとともに、各主体の連携をより一層強化し、地域防災力の強化を図ります。

【⑤地球温暖化対策の推進と

循環型のしくみの構築】

- 持続可能な社会の形成に向けて、市民・事業者・行政の協働による地球環境配慮の取組をより一層推進するとともに、気候変動への適応に向けた検討を進め、地域レベルから地球温暖化対策に取り組みます。
- また、廃棄物の発生・排出抑制やリサイクルの推進などにより、循環型のしくみづくりを進めます。

【⑥緑豊かな環境づくり】

- 良好な自然環境を次世代に継承していくため、多摩丘陵などの貴重な緑の保全と育成に取り組みます。また、憩いとうるおいの場をつくりだすため、公園緑地の整備や水と親しむ空間づくりを進めるとともに、協働の取組による身近な緑の創出・育成を推進します。

【⑦川崎の発展を支える産業の振興】

- 環境と産業が調和した持続可能な社会をめざし、首都圏における川崎の地理的優位性や我が国を代表する先端技術産業の集積、数多くの研究開発機関の立地などを活かして、活力ある産業の創出や臨海部の再生、さらには環境や福祉をはじめとした新産業の創造・育成など、国際競争力の強化と国際社会への貢献に向けた取組を推進します。

【⑧魅力ある都市拠点の整備と

快適な地域交通環境づくり】

- 地理的優位性や都市交通基盤を活かした「広域拠点の整備」と少子・高齢化による社会的要請の高い「身近な地域のまちづくり」をバランスよく進める広域調和・地域連携型のまちづくりを推進します。
- 公共交通機関や既存インフラ等の蓄積されたストックを最大限に活用した効率的かつ重点的な交通施策等を推進し、誰もが利用しやすい交通環境づくりを推進します。

【⑨文化・芸術・スポーツを振興する】

- 超高齢社会を迎える中で、豊かでうるおいのある市民生活や、活力のある地域社会を実現していくため、地域の歴史や文化に根ざした川崎らしさとともに、川崎の新たな魅力として定着しつつある音楽、スポーツ、産業観光などの地域資源を活かした取組を進めます。
- また、東京オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際的なイベント等の機会を捉えた川崎の魅力の市内外への発信、さらには、文化・芸術・スポーツ等の分野における市民主体の活動の支援により、都市イメージの向上と市民が愛着と誇りを持てるまちづくりをめざします。

【⑩参加と協働により市民自治を推進する】

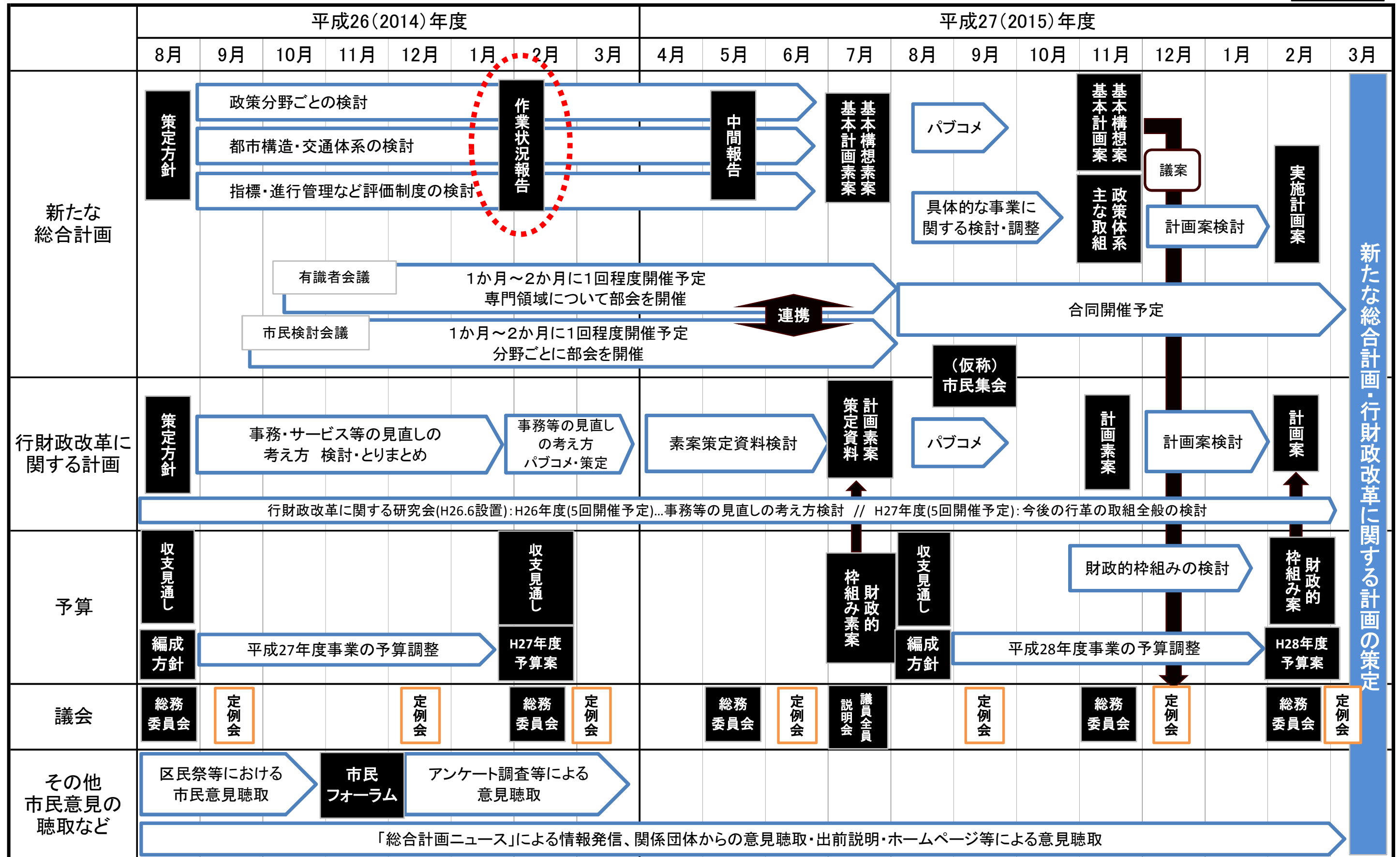
- 少子高齢化が進み、地域の課題も多様化・複雑化する中で、誰もがいきいきと心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現に向けて、幅広い世代やさまざまな立場の人々が共感し、支え合うまちづくりを進めます。
- また、地域コミュニティの中心的存在である町内会・自治会の活性化を図るとともに、市民・大学・企業など多様な主体間の連携・協働、シニア世代をはじめとする地域人材の多様な能力の活用を進め、自治基本条例に基づく市民自治をさらに推進します。

【⑪区における総合行政の推進】

- 市民生活に密着した区役所が、身近な課題にスピーディに対応できるよう、区の予算や組織及び住民自治の拡充など、中長期的な「区役所のあり方」について検討し、これからの社会経済環境の変化を見据えながら、区の特性を活かした地域と一体となったまちづくりを推進します。

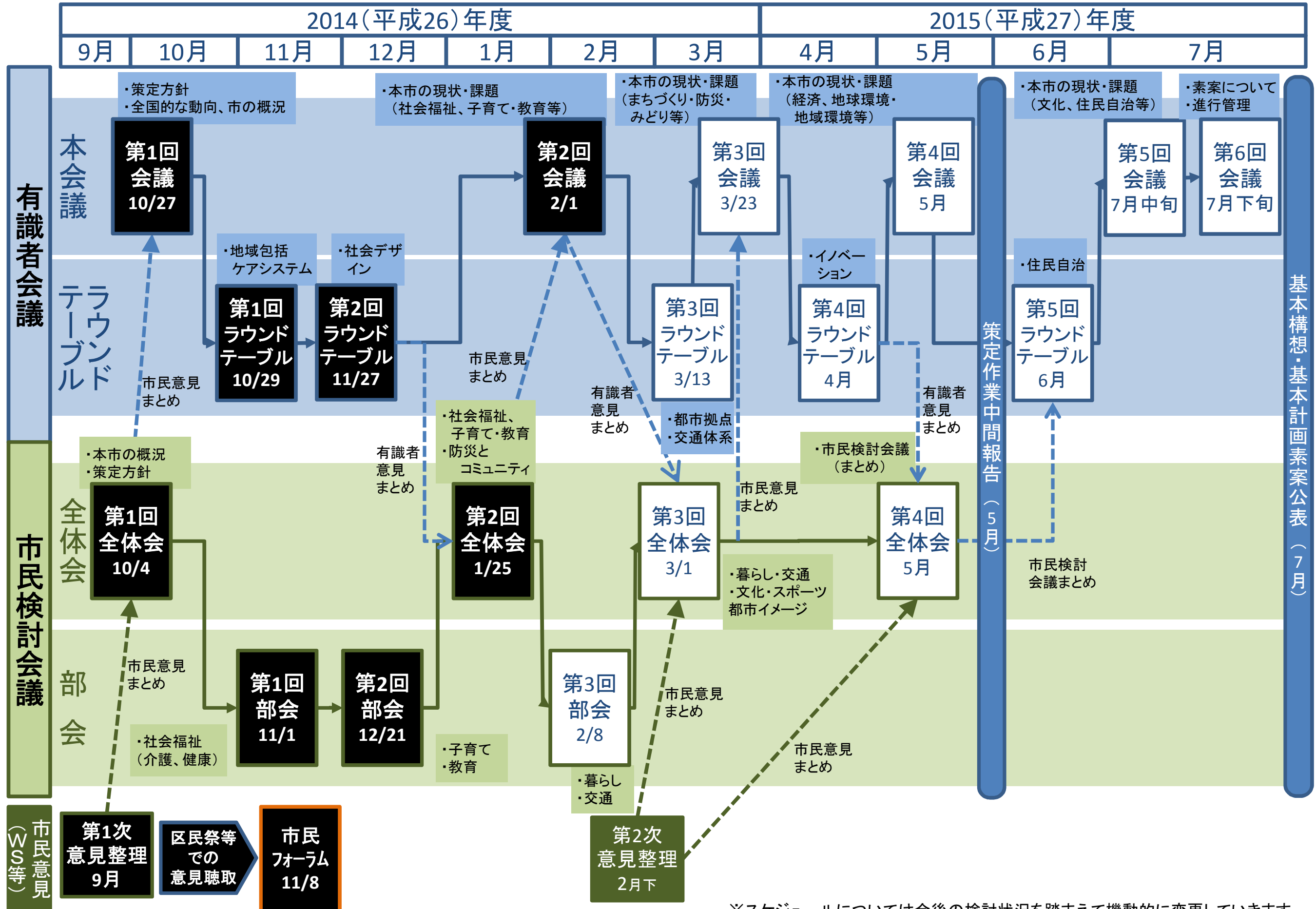
新たな総合計画及び行財政改革に関する計画の策定に向けたスケジュール(案)

資料2



新たな総合計画・行財政改革に関する計画の策定

有識者会議・市民検討会議の流れ(案)



※スケジュールについては今後の検討状況を踏まえて機動的に変更していきます。

新たな総合計画のポイント

01

新たな総合計画のポイント

目指すべき姿

- ✓ 市民に分かりやすく、伝わりやすい計画
- ✓ それぞれの施策を実施する目的が明確で、進捗状況が管理しやすい計画
- ✓ 最適な資源・財源の配分による効果的・効率的で実行性の高い計画行政の推進

新たな総合計画の主な特徴

- ① 市民生活の変化を実感できる「**成果指標**」の導入
- ② それぞれの施策に**市民生活の向上に直結する「直接目標」**を位置づけ
- ③ 再掲事業が多く複雑だった「**政策体系**」の簡素化
- ④ 実施計画では**掲載事業を市民生活に影響の大きいものに精選し、「(仮称)アクションプログラム」でその他の事業も含め、全事務事業を管理**
- ⑤ 区の特徴を活かし、地域課題の解決に向けた**区計画**

02

① 市民生活の変化を実感できる「成果指標」の導入

5つの「基本政策」

例: 基本政策2 子どもを安心して育てることができるふるさとづくり

30程度の「政策」

例: 政策2-1 安心して子育てできる環境づくり

90程度の「施策」

例: 政策2-1-2 質の高い保育の充実と幼児教育の推進

900程度の「事務事業」

例: 認可保育所の整備、民間保育所の運営 幼児教育の振興事業 など

成果の把握の手法

成果指標①の設定(市民の実感)

例: 「子育てしやすいまち」と感じている市民の割合 など

成果指標②の設定(客観的成果)

例: 待機児童数 など

事業実施結果

例: 認可保育所の施設数と定員数 など

新たに導入

03

② それぞれの施策に市民生活の向上に直結する「直接目標」を位置づけ

✓ それぞれの施策(90前後)に「子どもを安心して預けられる環境を整える」のような「市民生活の向上に直結する目標(直接目標)」を設定します。

《イメージ》

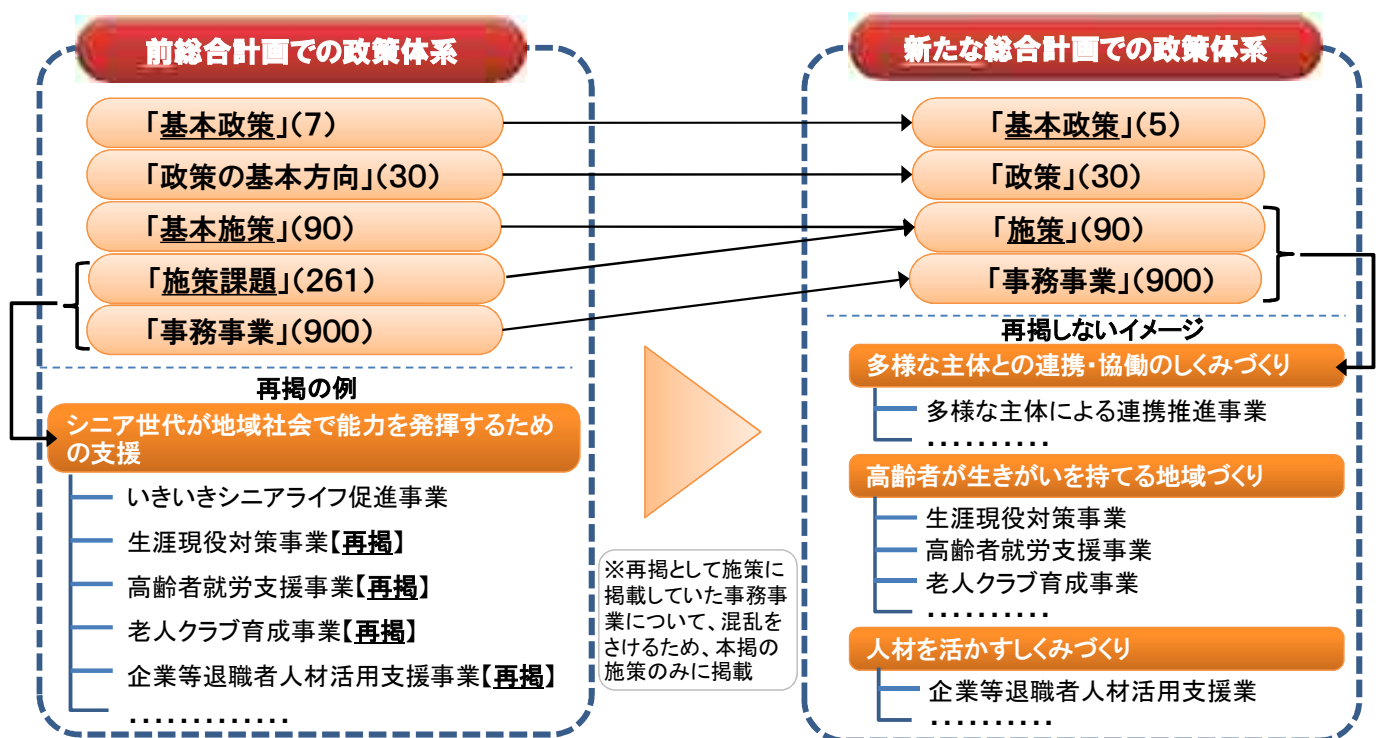
施策名	直接目標	想定される成果指標	直接目標を達成するための事務事業の例
質の高い保育の充実と幼児教育の推進	子どもを安心して預けられる環境を整える	待機児童数	認可保育所の整備、認可外保育施設の支援等、民間保育所の運営
安全な河川整備の推進	浸水による被害を減少させる	時間雨量50mmでの浸水被害想定面積(戸数)	五反田川放水路整備事業、河川改修事業
魅力にあふれた広域拠点の形成	川崎・武蔵小杉・新百合ヶ丘駅周辺に賑わいをつくり出す	3駅の乗降客数	新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり推進事業、川崎駅周辺総合整備事業、小杉駅周辺地区整備事業

04

③ 再掲事業が多く複雑だった「政策体系」の簡素化 その1

✓ 5階層から4階層へ簡素化

✓ 再掲施策・再掲事業の廃止



05

③ 再掲事業が多く複雑だった「政策体系」の簡素化 その2

- ✓ 政策体系を簡素化したことで表現できない部分は、「子ども・子育て支援事業計画」などの「(仮)分野別計画」や、「地域包括ケアシステム推進ビジョン」などの「(仮)分野横断的方針・計画」として整理する。

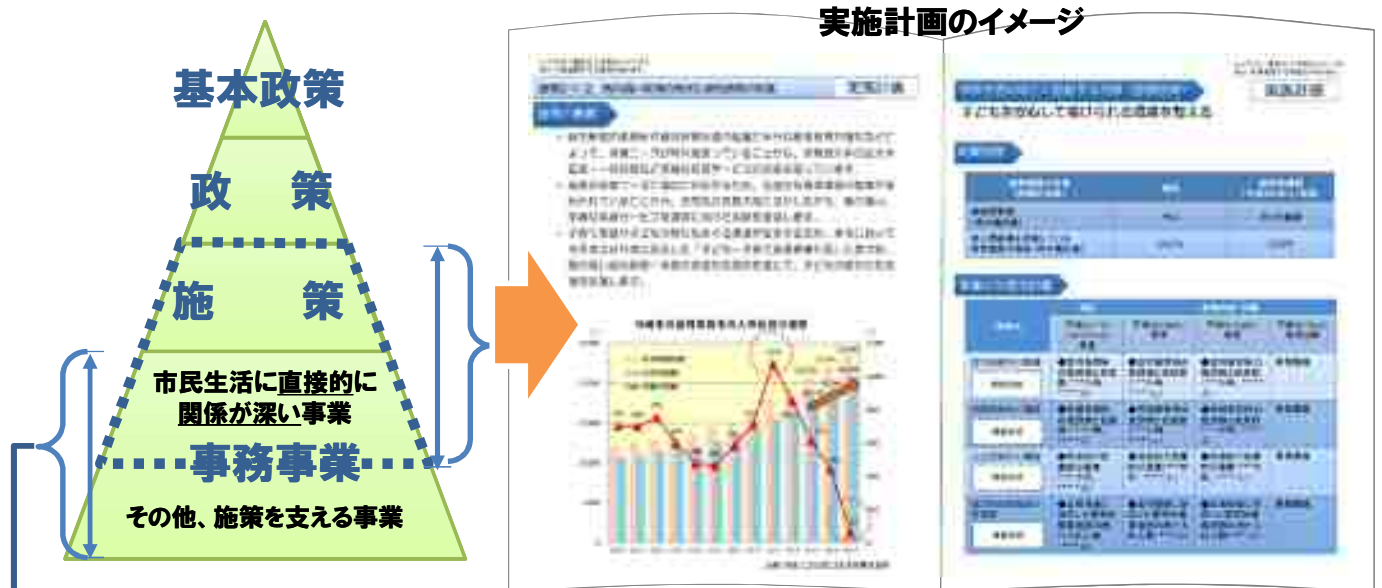
●「(仮)分野別計画」及び「(仮)分野横断的方針・計画」のイメージ

	基本政策Ⅰ 生命を守り生き生きと暮らすことができるまちづくり	基本政策Ⅱ 子どもを安心して育てることができるふるさとづくり	基本政策Ⅲ 市民生活を豊かにする環境づくり	基本政策Ⅳ 活力と魅力あふれる力強い都市づくり	基本政策Ⅴ 誰もが生きがいを持てる市民自治の地域づくり
(仮)分野横断的方針・計画	川崎市ウェルフェアイノベーション推進計画			川崎市ウェルフェアイノベーション推進計画	
	川崎市人権施策推進基本計画				
	地域包括ケアシステム推進ビジョン			地域包括ケアシステム推進ビジョン	
(仮)分野別計画	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 かわさきノーモラライゼーションプラン など 	<ul style="list-style-type: none"> かわさき教育プラン 子ども・子育て支援事業計画 など 	<ul style="list-style-type: none"> 環境基本計画 一般廃棄物処理基本計画 など 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画マスタープラン 産業振興プラン など 	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市情報化基本計画 など

06

④ 実施計画では掲載事業を市民生活に影響の大きいものに精選し、「(仮称)アクションプログラム」でその他の事業も含め、財源の裏付けのある全事務事業を管理

- ✓ 実施計画自体をデータや写真、イメージ図を用いて市民に伝わりやすい構成とし、事業内容の記載は市民生活に関係が深いものを中心とする。



※「(仮称)アクションプログラム」でその他施策を支える事業も含めた財源の裏づけのある全事務事業を進行管理

07

⑤ 区の特徴を活かし、地域課題の解決に向けた区計画

考え方

- ✓ 市民ニーズや地域課題へのきめ細かな対応と、地域の魅力や特性を活かしたまちづくり等の施策を区別にわかりやすく示すことで、区内の取組の全体像を市民に的確に伝える
- ✓ 市民に身近な区役所による主要な施策と分野ごとの施策を関連付け、地域課題解決に向けた取組を総合的に推進する

位置付けと主な特徴

<位置付け>

区計画は実施計画の構成要素として位置付け、区役所が独自に取り組む事業とともに、市民生活に関わりの深い各局の事業を体系化して構成



<主な特徴>

- ① 区の地域特性や課題等を踏まえたまちづくりの目標や主要な取組を明示
- ② 市民が手に取りやすい形式
- ③ 「多様な主体の連携（共助）の取組事例」などコラム的な記事を掲載

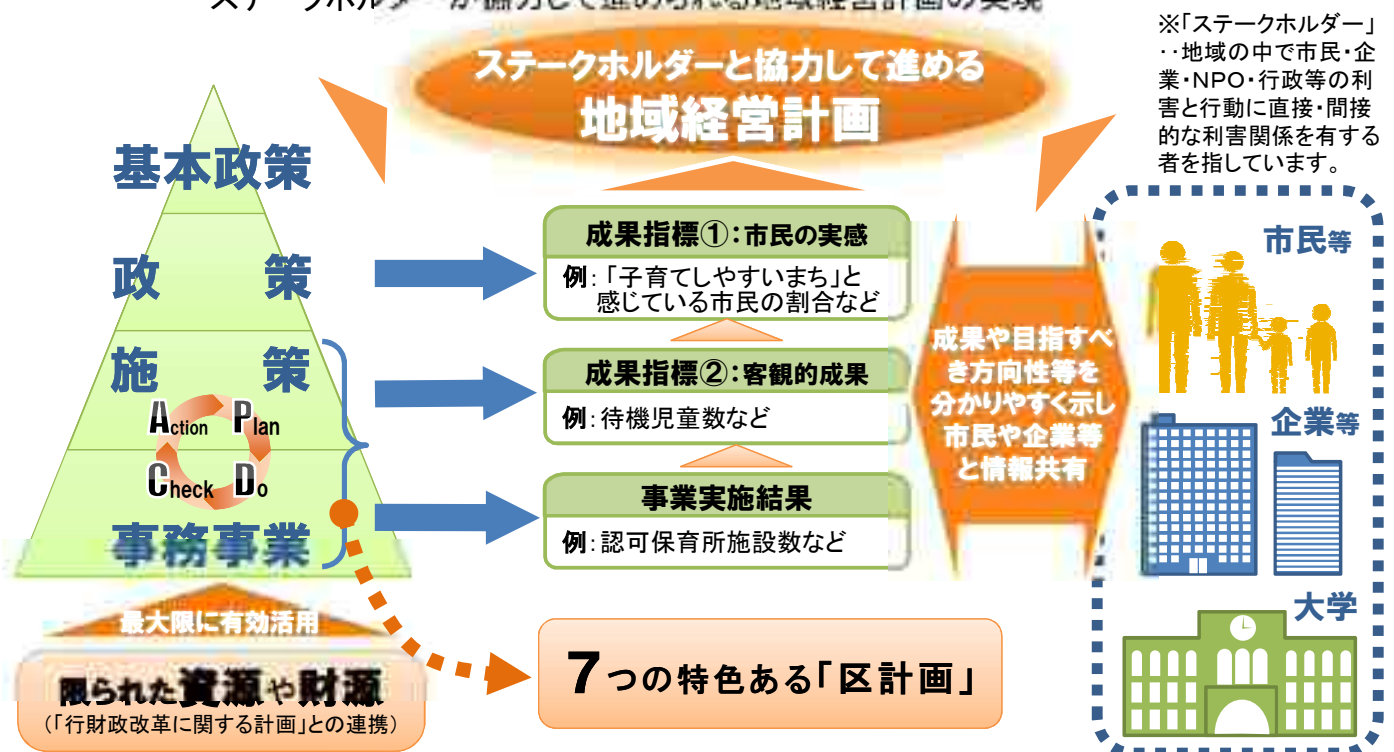
【区計画を構成する主な項目】

- ① 区の概要（人口・面積・歴史・地理的特性など）
- ② 区の現状と課題
- ③ まちづくりの目標・将来像
- ④ 地域の課題解決に向けた主要な取組
- ⑤ 区における計画期間の取組
- ⑥ その他（図表・多様な主体の連携事例等）

08

新たな総合計画の姿

- ✓ 市民や企業等に伝わりやすく、限られた資源や財源を最大限に有効活用しながら、ステークホルダーが協力して進められる地域経営計画の実現





新たな総合計画

(基本構想・基本計画・実施計画)

の冊子イメージ

川崎市基本構想

「基本構想」の構成

I 趣旨・目的

市の直面する状況、ポテンシャル、市政の基本的な考え方等を記載します。

II まちづくりの基本目標とめざす都市像

基本目標・・

「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき」

めざす都市像・・

「安心のふるさとづくり」「力強い産業都市づくり」

- ……
- ……

III 基本政策

1 生命を守り生き生きと暮らすことができるまちづくり

- ……
- ……

2 子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり

- ……
- ……

3 市民生活を豊かにする環境づくり

- ……
- ……

4 活力と魅力あふれる力強い都市づくり

- ……
- ……

5 誰もが生きがいを持てる市民自治の地域づくり

- ……
- ……

基本政策2

子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり

基本方針・目標

安心して子どもを産み育てるために、出産から育児、社会的自立など、子ども・若者の個々の成長に応じた「切れ目のない」支援を進めるとともに、地域で子ども・子育て家庭を支える社会づくりをめざします。

また、地域と行政が協働して、さまざまな世代が交流しながら地域で子どもを育てる取組を、総合的に展開することにより、未来を担う子どもたちが、社会の中で自立して主体的な人生を送る基礎を築き、健やかに成長していく姿を市民が実感できるような地域社会をつくりまします。

さらに、市民が生涯を通じていきいきと学び、活動することを支援し、多様な市民の経験や能力が地域の中で、社会的な役割として活かされるような環境づくりを進めていきます。

政策体系

基本政策2 子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり

政策2-1 安心して子育てできる環境づくり

政策2-2 未来を担う人材を育成する

政策2-3 生涯を通じて学び成長する

基本政策2

政策2-1 安心して子育てできる環境づくり

基本計画

政策の方向性

- 少子化や核家族化の進む中、子育ての負担感や不安感を解消し、行政と地域が連携して、子育て家庭を支援する環境づくりを進めることにより、安心して子どもを産み、育てられる社会をめざします。
- 乳幼児期の子どもが安心して過ごしながら、充実した生活ができる環境づくりを目指し、保育所や幼稚園などにおいて、質の高い保育・幼児教育サービスを受けられるように取り組みます。
- 子どもが心身共に健やかに育つ環境づくりを進めるとともに、青少年が将来に希望を持ち、社会で自立した生活が送れるよう、地域と連携して、社会活動への参加意識の醸成や環境づくりを進めます。
- すべての子どもの健やかな成長と発達を促すため、支援を必要とする子どもや子育て家庭への相談・支援体制を充実するとともに、自立に向けた生活支援や福祉サービスの提供に取り組みます。

成果指標

成果指標の名称 (指標の出典)	現状	最終目標
子育て環境に対する 市民の意識(市民調査)	〇〇.〇%	現状値に対して 

施策体系

政策2-1 安心して子育てできる環境づくり

施策2-1-1 子育てを社会全体で支える取組の推進

施策2-1-2 質の高い保育の充実と幼児教育の推進

施策2-1-3 子どもの健やかな成長の促進

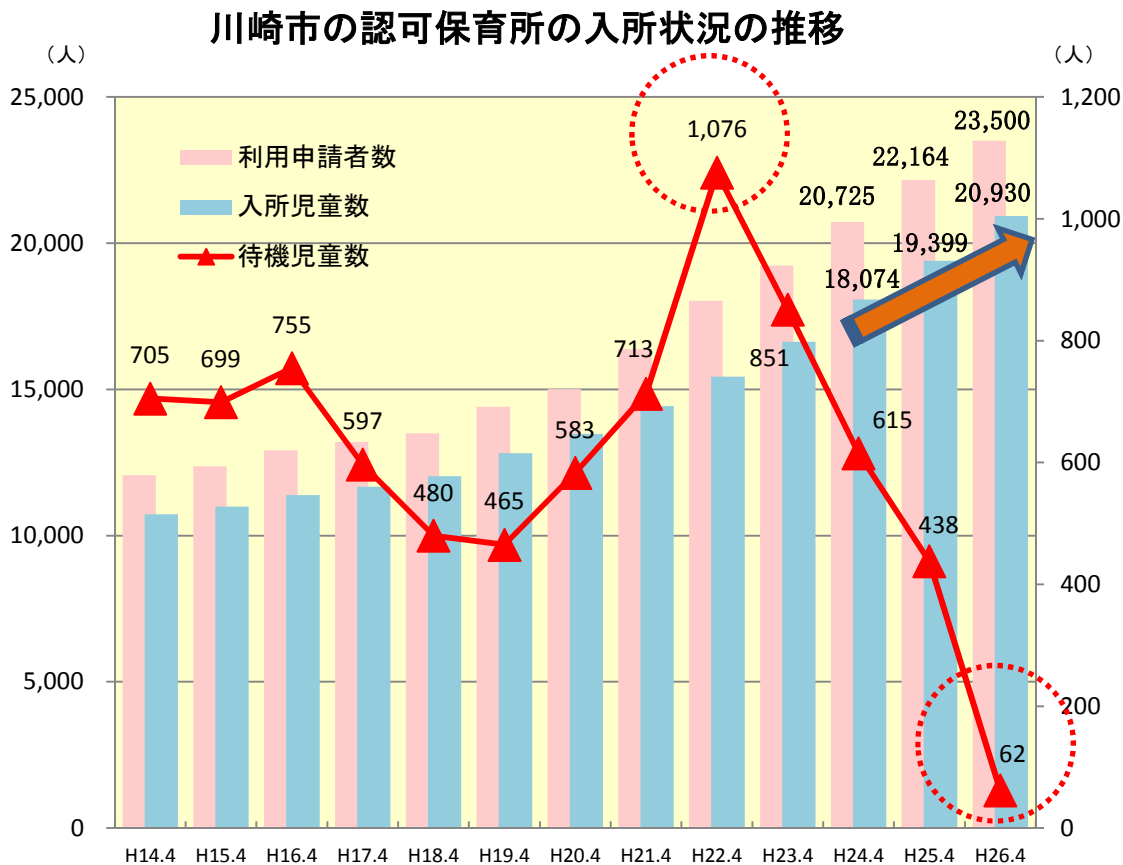
施策2-1-4 子育てを支援する体制づくり

施策2-1-2 質の高い保育の充実と幼児教育の推進

実施計画

施策の概要

- 就労形態の多様化や育児休業制度の定着に伴う共働き世帯が増加などによって、保育ニーズが年々高まっていることから、保育受入枠の拡大や延長・一時保育など多様な保育サービスの充実を図っています。
- 高まる保育ニーズに適切に対応するため、迅速な保育環境等の整備が求められていることから、民間活力を最大限に活かしながら、質の高い、多様な保育サービスを提供に向けた取組を推進します。
- 子育て家庭や子どもの育ちをめぐる環境が変化するなか、本市においても平成26年度に策定した「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、質の高い幼児教育・保育の安定的な提供を通じて、子どもの健やかな発達を支援します。



出典：市民・こども局こども本部集計資料

市民生活の向上に直結する目標（直接目標）

実施計画

子どもを安心して預けられる環境を整える

成果指標

成果指標の名称 (指標の出典)	現状	最終目標値 (平成29(2017)年度)
待機児童数 (市の集計値)	ゼロ	ゼロを維持
第三者評価を受審している 保育施設の割合(市の集計値)	〇〇%	〇〇%

事業の年度別計画

事業名	現状		事業内容・目標	
	平成26～27 (2014～15) 年度	平成28(2016) 年度	平成29(2017) 年度	平成30(2018) 年度以降
認可保育所の整備 概要説明	●認可保育所の施設数と定員数(***か所、****人)	●認可保育所の施設数と定員数(***か所、****人)	●認可保育所の施設数と定員数(***か所、****人)	事業推進
民間保育所の運営 概要説明	●民間保育所の施設数と定員数(***か所、****人)	●民間保育所の施設数と定員数(***か所、****人)	●民間保育所の施設数と定員数(***か所、****人)	事業推進
公立保育所の運営 概要説明	●効率的で効果的な運営(***か所、****人)	●効率的で効果的な運営(***か所、****人)	●効率的で効果的な運営(***か所、****人)	事業推進
認可外保育施設の支援等 概要説明	●本市施策に対応した認可外保育施設の受け入れ人数(****人)	●本市施策に対応した認可外保育施設の受け入れ人数(****人)	●本市施策に対応した認可外保育施設の受け入れ人数(****人)	事業推進

レイアウト・項目立ては仮のイメージで
あり、今後変更する可能性があります。

事業の進捗を確認する指標（活動指標）

実施計画

活動指標の名称 (指標の出典)	現状 (平成26～27 (2014～15) 年度)	中間目標値 (平成28(2016) 年度)	最終目標値 (平成29(2017) 年度)
市内の保育受入枠 (市の集計値)	〇〇〇〇〇人	〇〇〇〇〇人	〇〇〇〇〇人

新たな川崎の未来を考える市民検討会の取組

新たな総合計画策定に向けた市民検討会を、今年7月から8月にかけて無作為抽出した各区600人から参加希望者を募り、年代、性別等を考慮して各区30人を選び開催しました。このたび全区の取組が終了しましたので御報告します。

このような無作為抽出の市民による議論の場づくりは、本市でも新たな試みであり、これまで市政への参加や協働の経験があまりない10代から80代までの幅広い年代の市民から多くの意見を伺うことができました。

いただいた意見を整理し、各局区において参考とするほか、10月に設置する予定の有識者会議及び市民検討会議で活用するなど、総合計画の策定に活かしていきます。

- 午前のワールドカフェでは、7つのグループに分かれて「まちの好きなおところ」や「10年後のまち」について活発な議論が交わされました。途中グループ間で席替えをし、新たなメンバーで議論することで、より多くの意見が引き出されました。
- 午後のグループワークは、参加者の関心のあるテーマで4つのグループに分かれ、午前の議論を踏まえながら意見交換しました。市民と行政の役割なども踏まえた、より深い議論が行われ、テーマごとに「まちの方向性」についてのイメージが共有されました。
- 各区共通の意見としては、「まちの好きなおところ」では、「交通の利便性がよいこと」、「10年後のまち」では、「安全・安心にまちを歩けたり子育てできるまち」や「多世代で交流できるまち」などが出されました。テーマ別では、市の施策等の情報が市民に効果的に伝わっていない現状の改善や、多世代が互いに支え合う関係づくりなどの意見が多く出されました。

【7区の参加者数のまとめ】

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計			
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	平均
2	2	8	9	14	16	18	18	15	17	20	10	11	8	8	4	96	84	180	25

1 川崎区（7月5日（土）10時30分～16時、第4庁舎4階第6・7会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
1	0	0	2	3	5	0	4	2	0	3	2	1	3	1	0	11	16	14	17	31

2 幸区（7月21日（月・祝）10時30分～16時、区役所5階第1会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
0	0	2	1	1	3	3	3	3	0	5	2	1	1	0	1	15	11	20	18	38

3 中原区（8月23日（土）10時30分～16時、エポックなかはら7階大会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
0	1	1	3	1	2	3	1	3	3	2	0	1	1	2	2	13	13	18	17	35

4 高津区（8月9日（土）10時30分～16時、区役所5階第1・2会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
0	0	0	0	4	2	2	3	1	4	2	2	1	1	1	0	11	12	23	22	45

5 宮前区（7月20日（日）10時30分～16時、区役所4階大会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
1	0	1	1	0	2	4	2	2	3	4	1	3	0	1	0	16	9	28	12	40

6 多摩区（8月31日（日）10時30分～16時、区役所11階 会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
0	0	1	0	2	1	4	3	1	5	2	1	2	2	2	1	14	13	20	17	37

7 麻生区（8月10日（日）10時30分～16時、区役所4階第1・2会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
0	1	3	2	3	1	2	2	3	2	2	2	2	0	1	0	16	10	33	23	56



1 川崎の未来を考える市民検討会 | 川崎区

日時	平成26年7月5日(土) 10時30分～16時
会場	川崎市役所 第4庁舎4階第6・7会議室
参加者数	参加27名/応募31名 男女別 男性11名、女性16名 年代別 10代1名、20代2名、30代8名、40代4名、50代2名、60代5名、 70代4名、80代～1名

●主な意見(午前)

川崎のいいところ

- ・東京、横浜、羽田、房総へのアクセスが良い
- ・空気がきれいになった
- ・活気がある
- ・人柄が良い、優しい、下町風
- ・経済や産業の発展(グローバル化)している 等

10年後のまち

- ・孤独死にならない様な環境づくり
- ・安全に歩けるまちづくり
- ・市が取り組み改善されていることを小さい頃から教育し、市民1人1人が改善していくまち
- ・元々住んでいる人と移住者のコミュニケーションの場を増やしてより良い市に 等

●主な意見(午後)

自転車利用環境の向上と交通安全対策

- ・公共交通(バス)の利便性を向上させ、駅前の自転車も減らすことで、人にやさしい駅前にしよう
- ・子どもが自転車を買った時に自転車教室を開き、子どもからお父さん、お母さんにマナーを伝えてもらおう 等

高齢化の進行と地域コミュニティの活性化

- ・「行き先(まちなかの縁側、地域包括支援センター等)」と「担い手(その利用を進める人)」の充実と活性化により、高齢化に向けた対策をしよう
- ・施設の使い方の分かりやすいチラシづくりや、ホームページを見やすくするなど、広報方法を改善しよう 等

総合的な子ども支援の推進

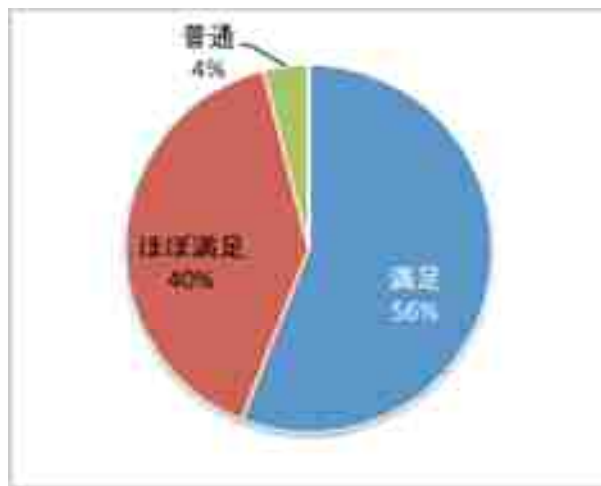
- ・川崎市から支援することで、大企業や工場に保育施設をつくる働きかけをしよう
- ・学校の校庭や使っていない施設、広場を有効利用し、子どもが遊べる場所を増やそう 等

観光・文化資源など地域の魅力を生かしたまちづくり

- ・川崎のイメージを裏返して明るいイメージに変えるための「競輪」のPRと「競輪場」の活用をしよう
- ・子どもと高齢者をつなげるツアーやイベントなどを実施し、互いに支え合う関係をつくろう 等

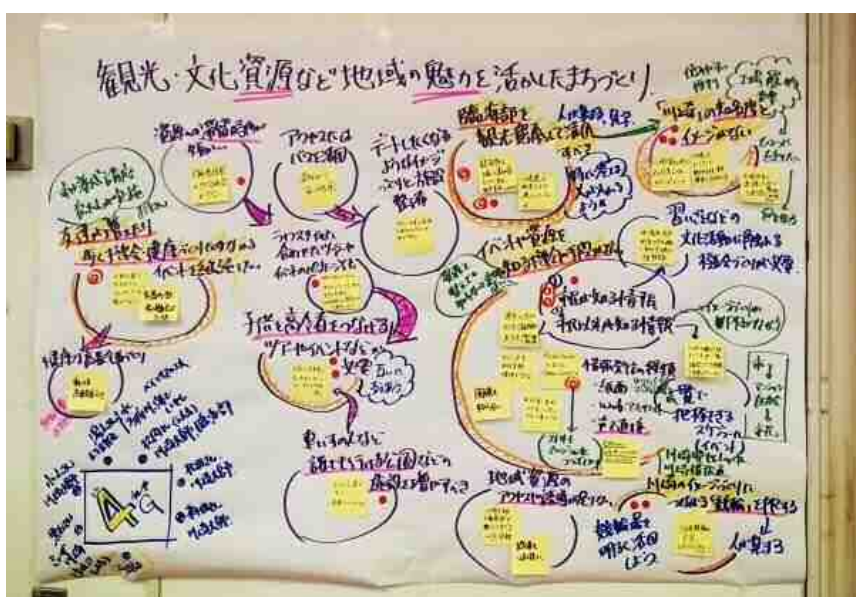
●アンケート結果

満足 14人 ほぼ満足 10人 普通 1人
 やや不満 0人 不満 0人 計 25人



【主な意見】

- 思っていた以上に楽しく、意味のある会だった
- 色々な人と意見を交換することができ、
 新たな発見があつて良かった
- 様々な年代の方々との実のある交流を楽しめた
- 皆で楽しく、一生懸命に川崎のことを考えられた



← グループ討議の意見を整理



→ 討議の様子

2 川崎の未来を考える市民検討会 | 幸区

日時	平成26年7月21日（月・祝）10時30分～16時
会場	幸区役所5階第1会議室
参加者数	参加26名/応募38名 男女別 男性15名、女性11名 年代別 20代3名、30代4名、40代6名、50代3名、60代7名、70代2名、 80代～1名

●主な意見（午前）

幸区のいいところ

- ・医療体制が整っている
- ・公害のないまちで素晴らしい市
- ・PTAの地域活動が盛んである
- ・何をすることも便利
- ・町内会がよくまとまっている
- ・文化施設が増え、教育に適したまち
- 等

10年後のまち

- ・歩道の拡張で歩きやすいまちに
- ・出生率を上げるための様々な子どもへの支援を
- ・働いている人、子どもがいる人、皆がまちづくりに参加できる
- ・異なる世代が住みやすい
- ・健康寿命UP
- ・川崎ならではの強み、文化、ブランド意識の醸成
- ・エコ都市化
- 等

●主な意見（午後）

災害対策や交通安全など安全安心なまちづくり

- ・個人が行動を判断できるように、防災や防犯に関する複数の情報伝達手段を整え、必要な場所や人に情報が届くシステムをつくろう
- ・自転車のルールやマナーが守られるよう、地域で見守ったり、声をかけるようにしよう
- 等

高齢化の進行と誰もが生き生きと暮らせる地域づくり

- ・元気な高齢者が高齢者や助けが必要な人を支える活動をボランティアではなくビジネスとして行う（生きがい、健康づくり、まちのインフラ、バリアフリー）
- ・多くの経験やノウハウを持ったお年寄りが、幼児（保育園）やそのお父さんお母さん、子どもたち（小中学校）に講師として教える機会をもつ
- 等

総合的な子ども支援の推進

- ・地域の中での世代をこえた交流を実現するため、自治会、町内会に若い世代が積極参加できるようにしよう
- ・所得制限など部分補助による小児医療費の補助をしよう
- 等

駅前拠点整備と新たなコミュニティづくり

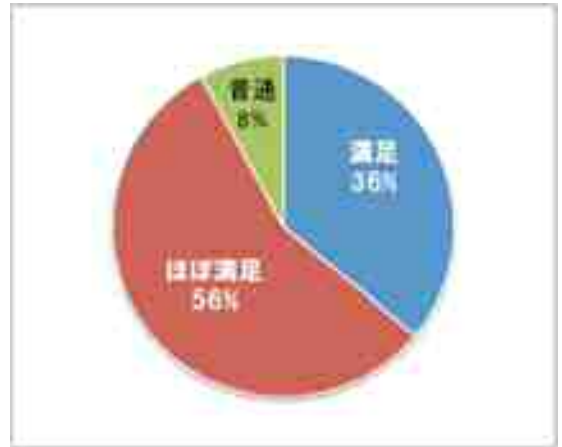
- ・人が集まる場（駅周辺、鹿島田・新川崎など）に行政のサービスがあると良い（行政サービスと住民の利用が混在した工夫）（子どもが遊ぶ、お年寄りが集まる）
- ・住んでいる人、訪れる人たちのシンボルとなる「駅」に。（シンボルとなる）みどりを植えるなど魅力的なしつらえを施そう
- 等

●アンケート結果

満足 9人 ほぼ満足 14人 普通 2人
やや不満 0人 不満 0人 計 25人

【主な意見】

- 川崎の現況は問題点などがわかって勉強になった
- 皆で楽しく、一生懸命に川崎のことを考えられた
- 今後もこのような機会に参加したいと思った



← 討議の様子
(グループ)



討議の様子
(全体) →

3 川崎の未来を考える市民検討会 | 中原区

日時	平成26年8月23日(土) 10時30分～16時
会場	エポックなかはら7階大会議室
参加者数	参加27名/応募31名 男女別 男性11名、女性16名 年代別 10代1名、20代2名、30代8名、40代4名、50代2名、60代5名、70代4名、80代～1名

●主な意見 (午前)

川崎のいいところ

- ・自転車で移動しやすい ・スポーツが市民生活に根ざしている ・お散歩しやすい身近な自然
- ・バランスの取れたまち(生活、商工業、文化、交通) ・若い人が増えてまちに活気がある 等

10年後のまち

- ・自転車のまち川崎 ・障がいのある方の地域参加 ・未病対策60歳以上みな受診する制度の実施
- ・要介護の人も幸せに暮らせるように ・段取りのあるまちづくり(人口に見合うインフラ) 等

●主な意見 (午後)

地域防災力の向上と防犯対策

- ・日頃から地域コミュニティのつながりを強め、イベントを活用し今の時代にあった情報発信をしよう
- ・地域と企業の話し合いの場を行政が橋渡しし、地元の大企業や商店街と地域との連携を深めよう 等

自転車利用環境の向上と交通安全対策

- ・自転車利用者のマナー向上の前提となる基本ルール(道路交通法)を、学校などで親子で勉強する機会を積極的につくろう
- ・「自転車のまち川崎」といわれるように、自転車の利用者意識を市民ぐるみで高めよう 等

高齢化の進行と支え合いの体制づくり

- ・今後増えていく高齢者のために空いた校舎や教室を活用して、ペットも一緒に高齢者とこどもが交流できるホームにしよう
- ・元気な高齢者、主婦、学生など、自分の時間に合わせて気軽にボランティア(声かけやお話)できる仕組みをつくろう 等

総合的な子ども支援の推進

- ・子育て支援センターを核として、親子や地域をつなぐ仕組みづくりをしよう
- ・こどもの遊び場が少なくなっている状況を解決するため、小学校の校庭開放やこどもの遊びやすい公園作りをしよう 等

●アンケート結果

満足 5人 ほぼ満足 13人 普通 1人
やや不満 0人 不満 0人 計 19人



【主な意見】

- 多様な属性の方々と本音で語る中で色々な意見を共有することができ、面白く勉強になる検討会であった
- 区や市に対する興味が高まった
- 皆様の意識の高さに驚くとともに感心した
- 行政が直接地元の本音を汲み、コミュニケーションを図る素晴らしい取組である



シール投票の様子



発表の様子

4 川崎の未来を考える市民検討会 | 高津区

日時	平成26年8月9日(土) 10時30分～16時
会場	高津区役所5階第1・2会議室
参加者数	参加23名/応募45名 男女別 男性11名、女性12名 年代別 30代6名、40代5名、50代5名、60代4名、70代2名、80代～1名

●主な意見(午前)

川崎のいいところ

- ・町会の活動が素晴らしく合理的でよい ・多摩川が近く花火大会がよく見える
- ・緑もあり野鳥もいてすみやすい町 ・物価が安く買い物が便利 ・高度な大企業が多い 等

10年後のまち

- ・全国に誇れる個性ある川崎 ・子育て世代と高齢者の交流のあるまち
- ・わかりやすい行政サービスの提供 ・安全安心な子育てができる環境づくり 等

●主な意見(午後)

地域性に配慮した災害対策の推進

- ・まちで既に行われている防災活動を知らせる「(仮称)ミニまちの防災情報の家」を交番、商店、学校、コンビニと協力して増やそう
- ・行政からの災害情報の伝達を効率的にできるように、日頃から住民は情報がやりとりできる人とのつながりを増やしておこう 等

高齢化の進行と地域の福祉・医療

- ・多世代が気軽に集まれるコミュニティの場があると良い(市民運営で役割分担、リサイクルで収益をあげる、子どもの面倒をみる)
- ・職業人としてのスキルを活かして人を育てる、子育てのノウハウを活かすなど、活躍できる場や仕事があると良い 等

総合的な子ども支援の推進

- ・病気の時に子どもを預けられるように、①クリニック併設+行政の認可・補助、②専門のスキルを持った人が研修を受けてシッターになる、などの取組を推進しよう
- ・子ども文化センター等の指定管理などをNPOに一括して委託し、防災拠点、多世代交流拠点、地域密着型の運営にしよう 等

歴史や文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり

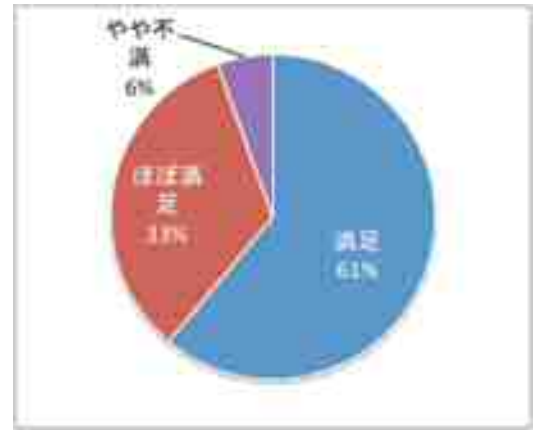
- ・里山的な自然環境を増やすことで、子どもの頃から人の営みに必要な五感を磨こう
- ・歴史やものづくりの語り部との交流によって、高津の子どもが歴史に触れる機会を増やそう 等

●アンケート結果

満足 11人 ほぼ満足 6人 普通 0人
やや不満 1人 不満 0人 計18人

【主な意見】

- 色々な年代、分野、観点からの意見を聞けて勉強になった
- 課題を知り、今後何をすべきか真面目に考える
よい機会となった
- 区民同士の意識の共有を図ることができた
- 時間が足りないくらいに感じた



← 討議の様子



討議の様子 →

5 川崎の未来を考える市民検討会 | 宮前区

日時	平成26年7月20日(日) 10時30分~16時
会場	宮前区役所4階大会議室
参加者数	参加25名/応募40名 男女別 男性16名、女性9名 年代別 10代1名、20代2名、30代2名、40代6名、50代5名、60代5名、70代3名、80代~1名

●主な意見 (午前)

宮前区のいいところ

- ・買物に便利、都心に出やすい ・教育水準が高い ・都会と田舎の環境が味わえる
- ・地産地消の産品がある ・町内会のシルバーの方々がとても頑張っている 等

10年後のまち

- ・経済よりも安心安全のまちづくりを目指す ・省エネモデル都市 (防災もかねて)
- ・引越等で外からいらした方々がほっと出来る空気を感じられるまち ・次世代を呼び戻す政策
- ・バスの路線を充実させる (小型バス) 等

●主な意見 (午後)

高齢社会における生涯を通じた健康づくり

- ・住民や、企業、商店街などが出資したり、運営するような、ちょっとした移動にも使える身近な交通手段を開発する (バス、トゥクトゥク、人力車)
- ・学校や地域の子どもたちに、お年寄りが「教える場」をつくる (心の健康) 等

総合的な子ども支援の推進

- ・学童プラザ (仮称) を、学びと防災と地域コミュニティの拠点にしよう
- ・土曜日に授業するなど、学校の教育カリキュラムや体制などを見直そう! (お母さんの負担↓) 等

駅前拠点整備と身近な地域の交通

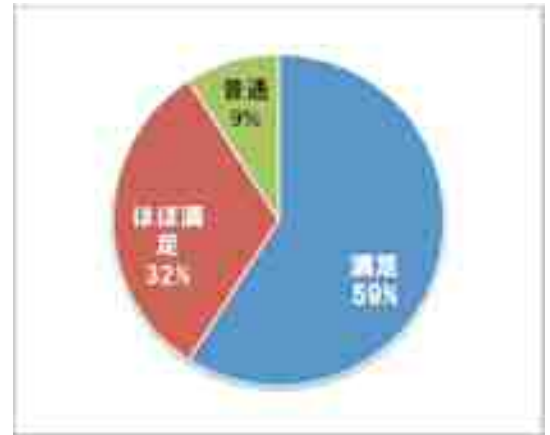
- ・高齢者も外出しやすいようにコミュニティバスなどでバス路線を増やしたい (不便な地域にアンケートをとってニーズを把握する) (フリー降車区間の設定や回送車の有効活用などを検討しよう)
- ・鷺沼駅のロータリーや駐輪場、憩いの場などの機能を強化したい (再開発や時間帯による自動車規制によって) 等

地域活動・地域コミュニティの活性化

- ・地域で活動する際に集まれる拠点が近くに必要
- ・地域活動、コミュニティの場の情報のPRに工夫が必要 ex) 重要なものは全戸配布、身近なもの、必要なものだと一目でわかる 等

●アンケート結果

満足 13人 ほぼ満足 7人 普通 2人
やや不満 0人 不満 0人 計 22人



【主な意見】

- 参加者の意見を十分に反映できる運営方法に好感が持てた
- テーマは別々だが、導きだされるアイデアに共通
・関連する部分が多かった
- 高校生の参加など、参加者の幅を広げてもよいのではないか



← ワールドカフェの様子



発表の様子 →

6 川崎の未来を考える市民検討会 | 多摩区

日時	平成26年8月31日(日) 10時30分～16時
会場	多摩区役所 11階 会議室
参加者数	参加 27名/応募 37名 男女別 男性 14名、女性 13名 年代別 20代 1名、30代 3名、40代 7名、50代 6名、60代 3名、70代 4名、 80代～3名

●主な意見 (午前)

川崎のいいところ

- ・犯罪が少なく落ち着いた環境
- ・生田緑地等の自然とふれ合える環境がある
- ・水がおいしい
- ・区内施設が充実している
- ・色々な国籍の人も仲良く共存している
- ・不便がないところ 等

10年後のまち

- ・災害時に自給自足できるまち
- ・保育先に困る親と元気な中高年のマッチング
- ・教育の場がたくさんあるまち
- ・自然の豊かさを活かしたまち
- ・地域で根付いて暮らせるよう雇用を増やす 等

●主な意見 (午後)

高齢社会における生涯を通じた健康づくり

- ・退職者が地域で人の役に立つ、趣味を活かせるような機会づくりを進めよう
- ・交流する場や機会に関する情報を手に入れる、教える手段としてスマートホンなどIT機器の使い方を若者が高齢者に教え、高齢者からは色々なノウハウを学べるようにしよう 等

総合的な子ども支援の推進

- ・親だけでなく、地域や他の大人が子育てに関わる環境をつくろう
- ・虐待やいじめの心配があるときに、どこに相談したらよいかの情報の流れを整理しPRしよう 等

豊かな自然や観光・文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり

- ・多摩区の自然や観光地などを交通、遊歩道等でうまくつないで、訪れた人が楽しく回れる区にしよう
- ・「小沢城址×多摩の梨カフェ」など地域資源と多摩の食をコラボして魅力を発信しよう 等

駅前拠点整備など暮らしやすい生活環境づくり

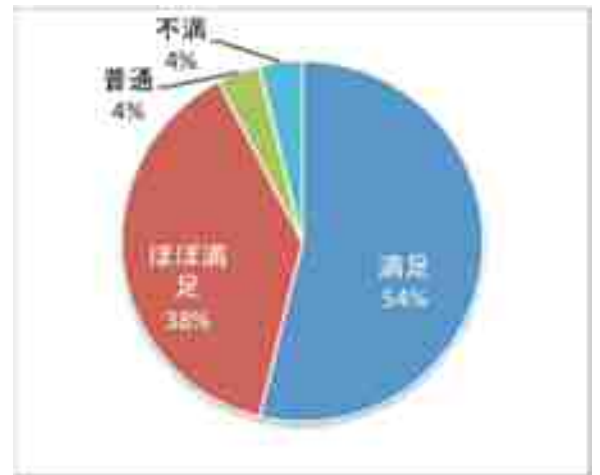
- ・区内の移動を便利にするために、多様な手段を確保しよう
- ・斜面地の安全性を確保するため、安定化の工事、防災情報発信の仕組みを構築しよう 等

●アンケート結果

満足 14人 ほぼ満足 10人 普通 1人
やや不満 0人 不満 1人 計26人

【主な意見】

- 幅広い世代の意見が聞けてとても充実していた。
自分の目線では気づかない課題が多くあることも理解できた
- 意見が出しやすい雰囲気楽しく参加できた
- 有意義な議論が行えた



← 討議の様子



討議の様子 →

7 川崎の未来を考える市民検討会 | 麻生区

日時	平成26年8月10日(日) 10時30分～16時
会場	麻生区役所4階第1・2会議室
参加者数	参加26名/応募56名 男女別 男性16名、女性10名 年代別 10代1名、20代5名、30代4名、40代4名、50代5名、60代4名、 70代2名、80代～1名

●主な意見 (午前)

川崎のいいところ

- ・都会と田舎が混在して住みやすい ・病院が多く医療が行き届いている ・街並みが美しい
- ・芸術のまちとして誇れる ・川崎＝公害のまちという等式を思い浮かばせないまち 等

10年後のまち

- ・高齢者や子育て主婦にも働く機会がたくさんある ・重い障害を持つ人がもっとまちにいて(市民が)手伝いをしているまち ・事実に基づいて意思が言えて世論の形成に参加できる教育をする 等

●主な意見 (午後)

自助・共助・公助による災害対策の推進

- ・災害時(直後、少しあと、2～3日、1週間、落ち着いた時)に必要な情報が発信され、細かいエリア単位で簡単に受け取ることができる仕組みづくりをしよう
- ・防災対策を住民だけでなく、民間企業も連携して組み立てよう 等

高齢化の進行と誰もが生き生きと暮らせる地域づくり

- ・これまでのキャリアを活かし、地域のためになる仕事をみんなでつくって生きがいにしよう(楽しみながらできる、高齢者による子育ての見守り、公園の管理、保育ボランティア)
- ・楽しめる場が住宅地の中心にあると外出しやすくなり、引きこもりが減らせる(多世代でスポーツを楽しめる場所など) 等

農と環境を活かしたまちづくり

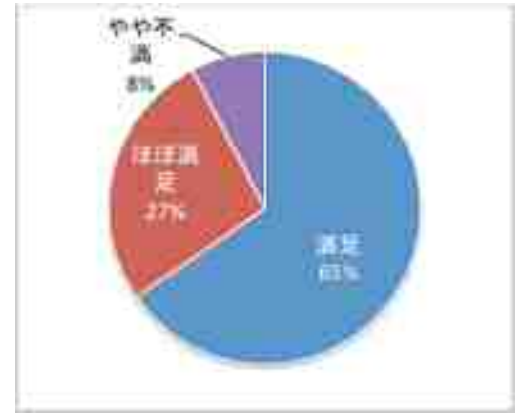
- ・多世代が「農」や「緑」をテーマに交流できる機会をつくり、さらにそれらを通じて実践の場につなげるために、参加の入口を広げよう
- ・学校のカリキュラムに「農体験」を積極的に取り入れて、給食で食べるなど、「農」や「緑」についての理解を育もう 等

芸術・文化のまちづくり

- ・緑豊かな麻生区の自然を生かして、野外音楽祭や市民スポーツ大会を開催しよう
- ・芸術系大学との交流や連携を通じて、子どもも大人も芸術や文化に触れる機会を増やそう 等

●アンケート結果

満足 17人 ほぼ満足 7人 普通 0人
やや不満 2人 不満 0人 計26人



【主な意見】

- 地域のことを真剣に考える機会となった
- 市政について興味を持つ良い機会となった
- 麻生区（川崎市）のことが好きになった
- 参加者に見識のある方が多く、規模も少人数で充実感があつた



← グループ討議の様子



発表の様子 →

新たな総合計画策定に向けた 区民祭等の場を活用した市民意見聴取 （「まちづくりカフェ」）の実施結果について

1 目的

新たな総合計画の策定に向け、年齢・性別など幅広い層の方に、市政に関心を持っていただき、新たな総合計画の策定を進めていることを周知するため

2 企画の概要

- 人の多く集まる場所にブースを設置し、職員が直接市民に声掛けするなど、多くの人に参加していただいた。
- パネル展示により、社会経済情勢の変化や、区の現状・課題等をお伝えする。
- 関心を持っていただくため、新たな総合計画づくりに関するニュースなどをお配りし、内容を説明した。
- 無作為抽出した市民によるワークショップでいただいたご意見に共感する多くの方にシール投票に参加していただいた。



3 場所・日付

川崎区：11／2(日)	かわさき市民祭り(富士見公園)	投票数1, 782票
幸区：10／18(土)	幸区民祭(区役所)	663票
中原区：10／19(日)	なかはら”ゆめ”区民祭(等々力緑地)	1, 680票
高津区：7／27(日)	高津区民祭(大山街道)	465票
宮前区：10／26(日)	宮前区民祭(区役所)	1, 436票
多摩区：10／18(土)	多摩区民祭(生田緑地)	938票
麻生区：10／12(日)	あさお区民まつり(区役所)	1, 325票

合計8, 289票

4 各区での開催概要

次ページ以降に記載

新たな総合計画の策定に係る

まちづくりカフェ@川崎区

平成26(2014)年11月2日(日)

かわさき市民祭り | 富士見公園

投票総数：1782票

自転車利用環境の向上と交通安全対策

253票

- 公共交通の利便性の向上により、歩行者が歩きやすく、人にやさしい駅前にすることが大切

64票

- 地域ぐるみで放置自転車対策を進めることが大切

- 子ども向けの自転車教室などを通じて、誰もが自転車のルールやマナーを理解する取組を進めよう

204票



川崎区

総合的な子ども支援の推進

213票

- 学生や保育士の有資格者など地域人材のさらなる活用により、地域の子育て支援をさらに充実させることが大切

412票

- 地域の施設や広場を有効利用し、子どもが遊べる環境を増やすことが大切



高齢化の進行と地域コミュニティの活性化

293票

- 地域で行われている高齢者を支える取組を広く知ってもらうことが大切

- 地域のかで防災に強いまちにしよう

48票

- 「地域で何かしたい」と思っている人のきっかけづくりや、手助けが必要な人と支え手のマッチングにより、人の心と心がつながる地域づくりを進めよう

122票



観光・文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり

75票

- 「市民向け」や「市外向け」に、「紙面」「ホームページ」「直接説明する」など手法を使い分けて川崎の魅力を発信しよう

- 既存のイメージからさらに進化した新しい「川崎」のイメージづくりをしよう

37票

- 海や港、工場群など臨海部の地域資源を活かして、観光名所としてもっと活用を図ろう

61票

新たな総合計画の策定に係る

まちづくりカフェ@幸区

平成26(2014)年10月18日(土)

幸区民祭 | 幸区役所

投票総数：663票

災害対策や交通安全など安全安心なまちづくり

25票

- 災害発生時の避難先や避難経路について、日頃から行動を想定しておく

156票

- 町内会や学校などの地域組織と連携して地域情報(犯罪や災害の情報、災害弱者の方への対応など)を共有しよう

45票

- 自転車のルールやマナーが守られるよう、地域で見守ったり、声をかけあうようにしよう

総合的な子ども支援の推進

137票

- 地域の公園で子どももシニアも楽しみ、安心して子育てができるよう地域の人同士が交流していこう

18票

- シニア人材の活用など様々な視点で高齢者が地域で連携し子育て支援に関わることが大切

駅前拠点整備と新たなコミュニティづくり

23票

- 駅前の音楽ホールなど地域の資源をもっと活用し魅力アップを図ることが大切

27票

- 駅周辺などの人が集まる場所で様々な世代の人が交流できるようにしよう

幸区

80票

- 町内会・自治会活動へ若い世代が積極的に参加し、地域ぐるみで子育てを進めていききっかけづくりをしよう

高齢化の進行と誰もが生き生きと暮らせる地域づくり

29票

- 共通の趣味などを通じて新たなコミュニティづくりに向けた地域の交流を進めよう

89票

- 介護サービスの利用方法や高齢者を支えるための活動など、高齢者支援についてワンストップで相談できる環境づくりが大切

34票

- 元気な高齢者がボランティアではなくビジネスとして自分の経験を活かして活躍できる機会をつくろう

新たな総合計画の策定に係る

まちづくりカフェ@中原区

平成26(2014)年10月19日(日)

なかはら“ゆめ”区民祭|等々力緑地

投票総数：1680票

総合的な子ども支援の推進

612票

- 子どもがのびのびと遊べる環境づくりを進めよう

147票

- 親子や地域をつなぐ子育て支援の仕組みづくりをしよう

82票

- 利用者ごとに異なる駐輪場の利用ニーズにあわせて、商店街・鉄道事業者・市等が協力して、空きスペースの有効活用を図ることが大切

237票

- 車・バイク・自転車・歩行者それぞれが安全に通行できるように、道路の改善やバリアフリー化が大切

96票

- 自転車利用者のマナー向上のため「基本ルール(道路交通法)」をまず知ることが大切

中原区

高齢化の進行と支え合いの体制づくり

85票

- 元気な高齢者、主婦、学生などが、自分の時間にあわせて気軽に声かけやお話などのボランティア活動ができるようにしましょう

87票

- 祭りなどのイベントを活用して新住民が参加しやすい場づくりを行うなど、共助につながる地域コミュニティの充実を目指そう

地域防災力の向上と防犯対策

62票

- 地域内の施設と町内会が連携協力し、防災訓練を共同で実施したり、施設を活用して避難場所にするなど防災の取組を進めよう

32票

- 勉強会の開催などにより高齢者支援の活動に対する共感を高めて参加者や協力者をひろげよう

- 地域の施設を活用して多世代交流を図り、地域で支え合う取組を進めよう

175票

- 災害時に役立ち、日常はまちの生活情報が得られるような情報網を活用し、市民と行政のコミュニケーションを深めよう

65票

新たな総合計画の策定に係る

まちづくりカフェ@高津区

平成26(2014)年7月27日(日)

高津区民祭 | 大山街道

投票総数：465票



新たな総合計画の策定に係る

まちづくりカフェ@宮前区

平成26(2014)年10月26日(日)

宮前区民祭 | 宮前区役所

投票総数：1436票



新たな総合計画の策定に係る

まちづくりカフェ@多摩区

平成26(2014)年10月18日(土)

多摩区民祭 | 生田緑地

投票総数：938票

豊かな自然や観光・文化資源など
地域の魅力を活かしたまちづくり

高齢社会における生涯を通じた健康づくり

36票

- 地域資源と食のコラボによる魅力発信やイベントづくりなどを企業・行政・学校などとの連携で進めよう

- 住んでいる人にも来る人にも上手に多摩区をPRしよう

196票

- 人と人との交流の機会をつくり、一人暮らしでも、地域で「その人らしく」「安心して」生きていくことが大切

118票

- 仕事を退職した方が、地域で「人の役に立てる」「趣味が活かせる」ような機会をつくろう

19票

- IT機器の使い方を学ぶ機会を設けて高齢者が情報を自分から入手できるようにしよう

49票

- 幅広い世代が運動を通じて健康づくりと交流ができるような企画を考えよう

156票

- 生田緑地などの自然や観光地を交通・遊歩道などでつないで、楽しく巡れる多摩区にしよう

48票

多摩区

総合的な子ども支援の推進

駅前拠点整備など暮らしやすい生活環境づくり

23票

- サークル活動の充実など子育てに悩む親が気軽に相談できる環境づくりが大切

141票

- 虐待やいじめの疑いがあるときの連絡先の周知や、悩みを抱えた子どもが相談できる環境づくりが大切

- 親以外の大人や地域が子育てに関わる機会や場を増やして、子育てしやすい環境づくりを進めよう

36票

- 土砂災害等に備えて、自分の住んでいる地域の防災情報を身近に共有することが大切

56票

- 区民の区内移動を便利にするために、多様な交通手段を確保することが大切

新たな総合計画の策定に係る

まちづくりカフェ@麻生区

平成26(2014)年10月12日(日)

あさお区民まつり | 麻生区役所

投票総数：1325票

農と環境を活かしたまちづくり

●「農体験」に参加して、収穫した野菜を食べるなど「農」や「食」についての理解を育もう

116票

●多世代が豊かな緑を大切にすることをテーマに交流できる機会をつくろう

34票

●大学や地域の農家など、ノウハウを持った人達と密に連携しよう

22票

●ゴミのポイ捨てを減らすため、町会・事業所・子どもが集まって清掃する機会を増やそう

79票

●神社仏閣や食べ物、お祭りなどの郷土に親しむ機会をつくろう

97票

●車いすや足の不自由な人も一緒に行けるような誰もが外出することが楽しくなるような機会や場所を増やそう

109票

麻生区



芸術・文化のまちづくり

●芸術系大学や専門家など、多様な施設・団体活動と連携して、文化・芸術に触れる機会を増やそう

74票

●麻生区の豊かな芸術・文化・スポーツ資源をいろいろな方法で発信しよう

61票



高齢化の進行と誰もが生き生きと暮らせる地域づくり

●若い世代や子育て世代が、どんどん住みたくするような愛着のあるまちにしよう

441票

●高齢者がこれまでの知識や経験を活かし、地域のために、生きがいを持てるような仕事があるといいな

93票



自助・共助・公助による災害対策の推進

●行政には「できること」と「できないこと」があることを知り、自宅で避難生活ができる準備をするなど、自分でできることをなるべくしておこう

59票

●災害時に、誰でもすぐに・簡単に「自分の住むまちの情報」を受け取れる仕組みづくりを進めよう

38票

●日頃からの近所付き合いなど災害時にも「助け合える」人間関係を築こう

132票

平成26年度第1回 かわさき市民アンケート 概要版

調査の概要	
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ◆調査対象 川崎市在住の満20歳以上の男女個人 ◆標本数 3,000標本 ◆標本抽出 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ◆調査方法 郵送法 ◆調査期間 平成26年7月17日(木)～8月2日(金) ◆有効回収数 1,219標本 ◆有効回収率 40.6%
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 1 川崎市総合計画について 2 選挙について 3 区民会議について 4 大気環境データの提供について

※基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基数（人）	構成比（%）
1 男性	554	45.4
2 女性	646	53.0
（無回答）	19	1.6
合計	1,219	100.0

2 居住区別

	基数（人）	構成比（%）
1 川崎区	162	13.3
2 幸区	143	11.7
3 中原区	200	16.4
4 高津区	188	15.4
5 宮前区	198	16.2
6 多摩区	167	13.7
7 麻生区	146	12.0
（無回答）	15	1.2
合計	1,219	100.0

3 性／年代別

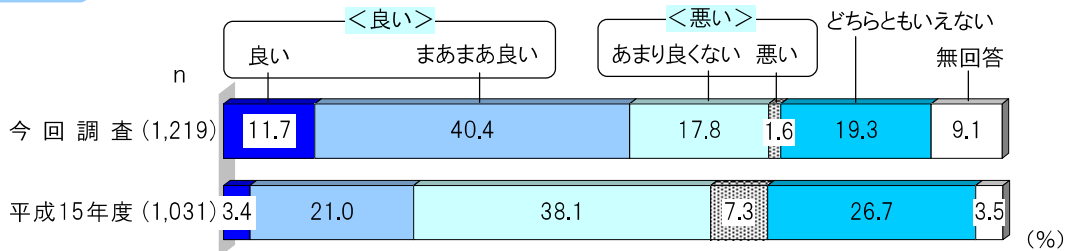
	全体		男性		女性		性別無回答	
	基数（人）	構成比（%）	基数（人）	構成比（%）	基数（人）	構成比（%）	基数（人）	構成比（%）
1 20歳代	106	8.7	46	8.3	60	9.3	-	-
2 30歳代	207	17.0	96	17.3	111	17.2	-	-
3 40歳代	271	22.2	104	18.8	167	25.9	-	-
4 50歳代	194	15.9	86	15.5	108	16.7	-	-
5 60歳代	233	19.1	128	23.1	105	16.3	-	-
6 70歳以上	188	15.4	94	17.0	94	14.6	-	-
（無回答）	20	1.6	-	-	1	0.2	19	100.0
合計	1,219	100.0	554	100.0	646	100.0	19	100.0

1 川崎市総合計画について

1 川崎市全体のイメージ

「良い」(11.7%)と「まあまあ良い」(40.4%)を合わせた<良い>は5割を超えており、平成15年度調査と比べて27.7ポイント高くなっています。一方「あまり良くない」(17.8%)と「悪い」(1.6%)を合わせた<悪い>はほぼ2割で、平成15年度調査と比べて26.0ポイント低くなっています。

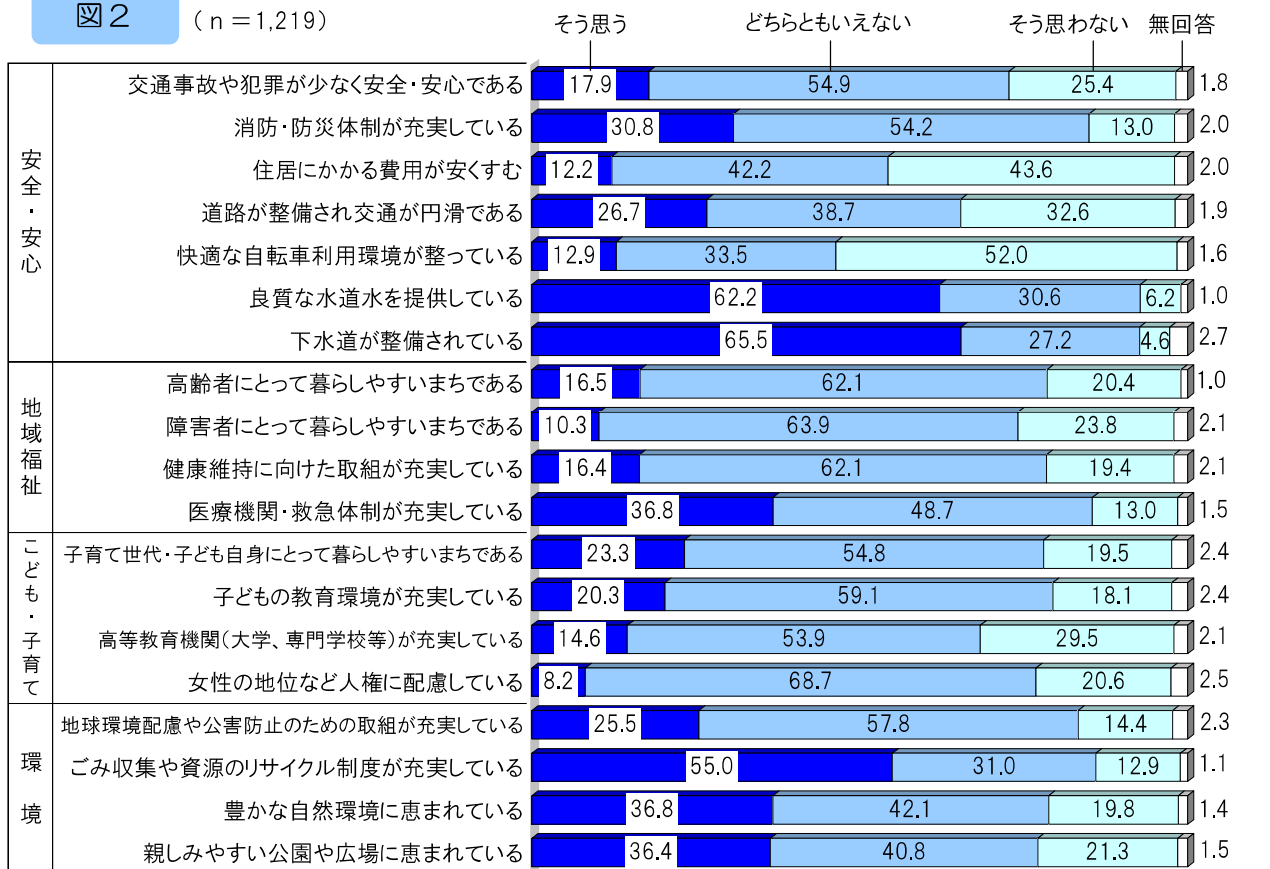
図1 (平成15年度との比較)



2 川崎市の魅力

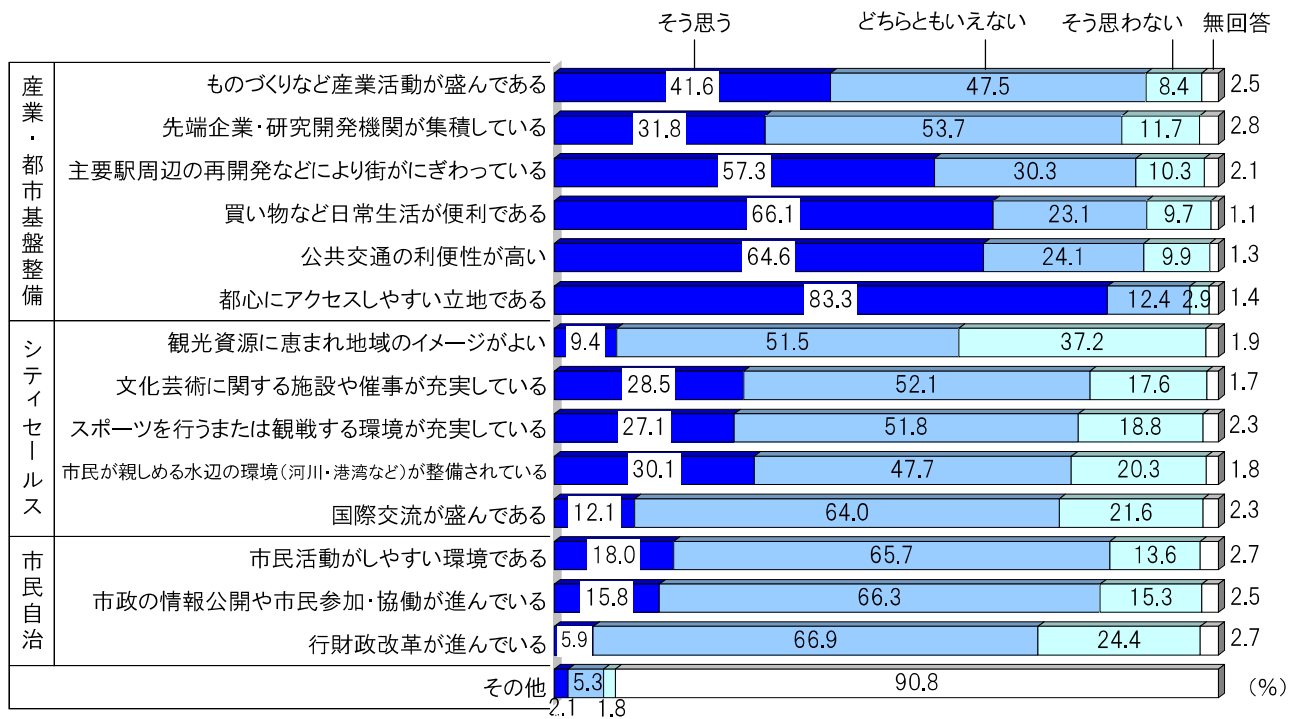
「そう思う」の割合が最も高いのは「都心にアクセスしやすい立地である」(83.3%)で、次いで「買い物など日常生活が便利である」(66.1%)、「下水道が整備されている」(65.5%)の順となっています。一方「そう思わない」の割合が最も高いのは「快適な自転車利用環境が整っている」(52.0%)で、次いで「住居にかかる費用が安くすむ」(43.6%)、「観光資源に恵まれ地域のイメージがよい」(37.2%)の順となっています。

図2 (n=1,219)



(%)

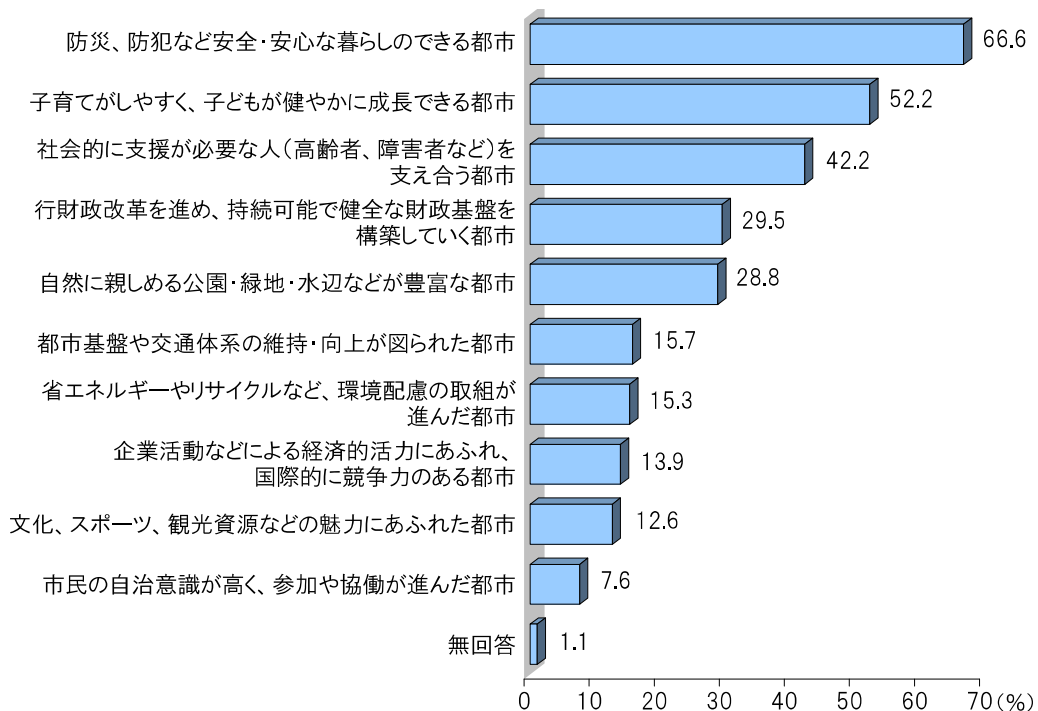
図2 (つづき) (n=1,219)



3 これからの10年で川崎市が目指すべき方向性・都市像

「防災、防犯など安全・安心な暮らしのできる都市」(66.6%)が最も高く、次いで「子育てがしやすく、子どもが健やかに成長できる都市」(52.2%)、「社会的に支援が必要な人(高齢者、障害者など)を支え合う都市」(42.2%)の順となっています。

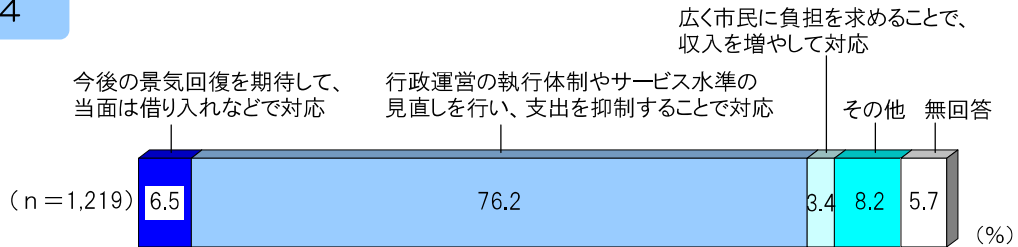
図3 (複数回答) (n=1,219)



4 川崎市の今後の財政運営の方向性

「行政運営の執行体制やサービス水準の見直しを行い、支出を抑制することで対応」(76.2%)が最も高く、次いで「今後の景気回復を期待して、当面は借り入れなどで対応」(6.5%)となっています。

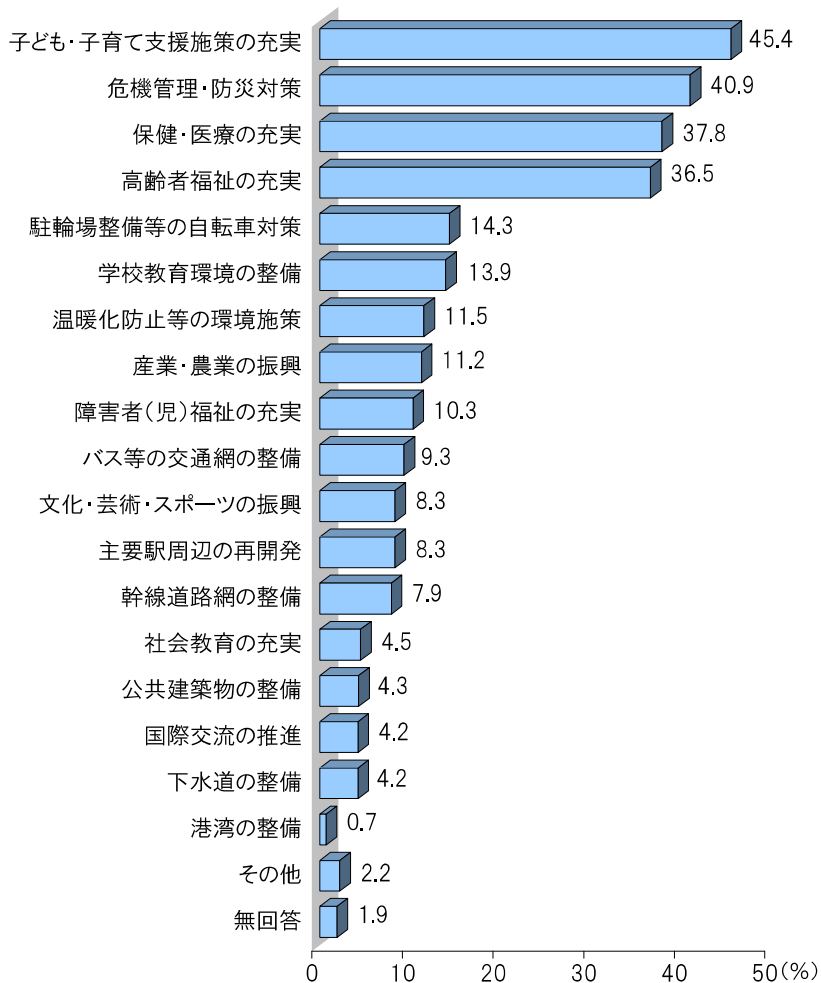
図4



5 川崎市の事業の見直しを進める中でも、特に継続すべき事業・サービス

「子ども・子育て支援施策の充実」(45.4%)が最も高く、次いで「危機管理・防災対策」(40.9%)、「保健・医療の充実」(37.8%)、「高齢者福祉の充実」(36.5%)の順となっています。

図5 (複数回答) (n=1,219)

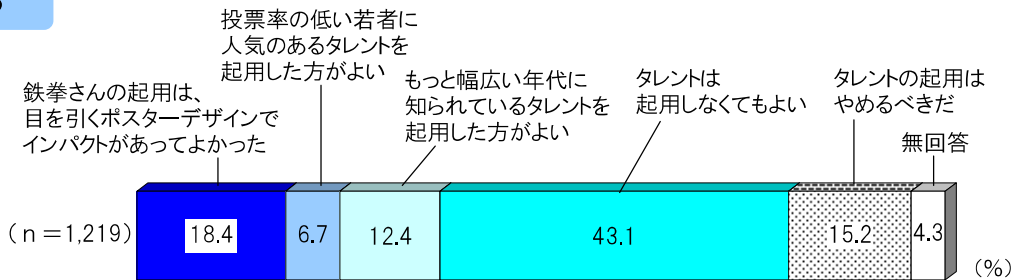


2 選挙について

1 選挙啓発イメージキャラクターとしてのタレント起用

平成25年10月の川崎市長選挙の啓発イメージキャラクターとしてお笑いタレントの鉄拳さんを起用したことについてどう思うか聞きました。「鉄拳さんの起用は、目を引くポスターデザインでインパクトがあってよかった」は18.4%でした。一方「タレントは起用しなくてもよい」(43.1%)と「タレントの起用はやめるべきだ」(15.2%)を合わせると約6割になりました。

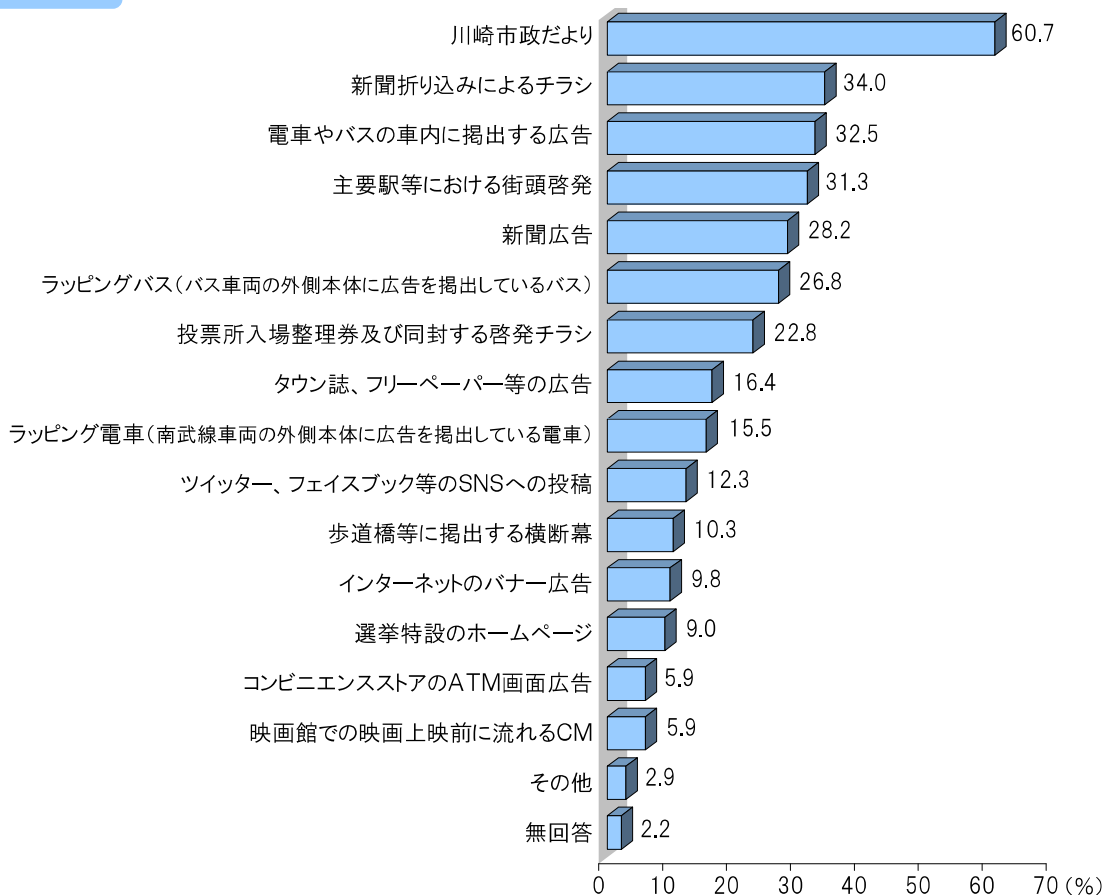
図6



2 今後の選挙で効果的だと思う周知手段

「川崎市政だより」(60.7%)が最も高く、次いで「新聞折り込みによるチラシ」(34.0%)、「電車やバスの車内に掲出する広告」(32.5%)の順となっています。

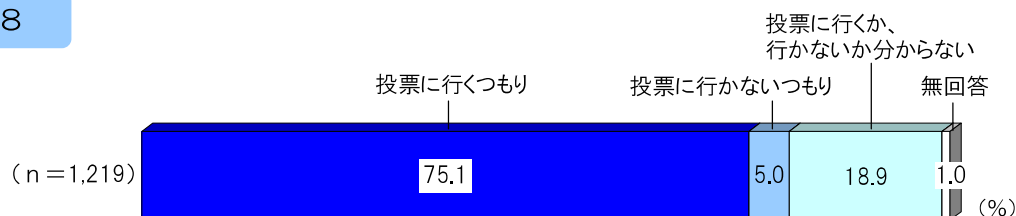
図7 (複数回答) (n=1,219)



3 平成27年春に行われる川崎市議会議員選挙等の投票意向

「投票に行くつもり」(75.1%)が最も高く、次いで「投票に行くか、行かないか分からない」(18.9%)、「投票に行かないつもり」(5.0%)の順となっています。

図8

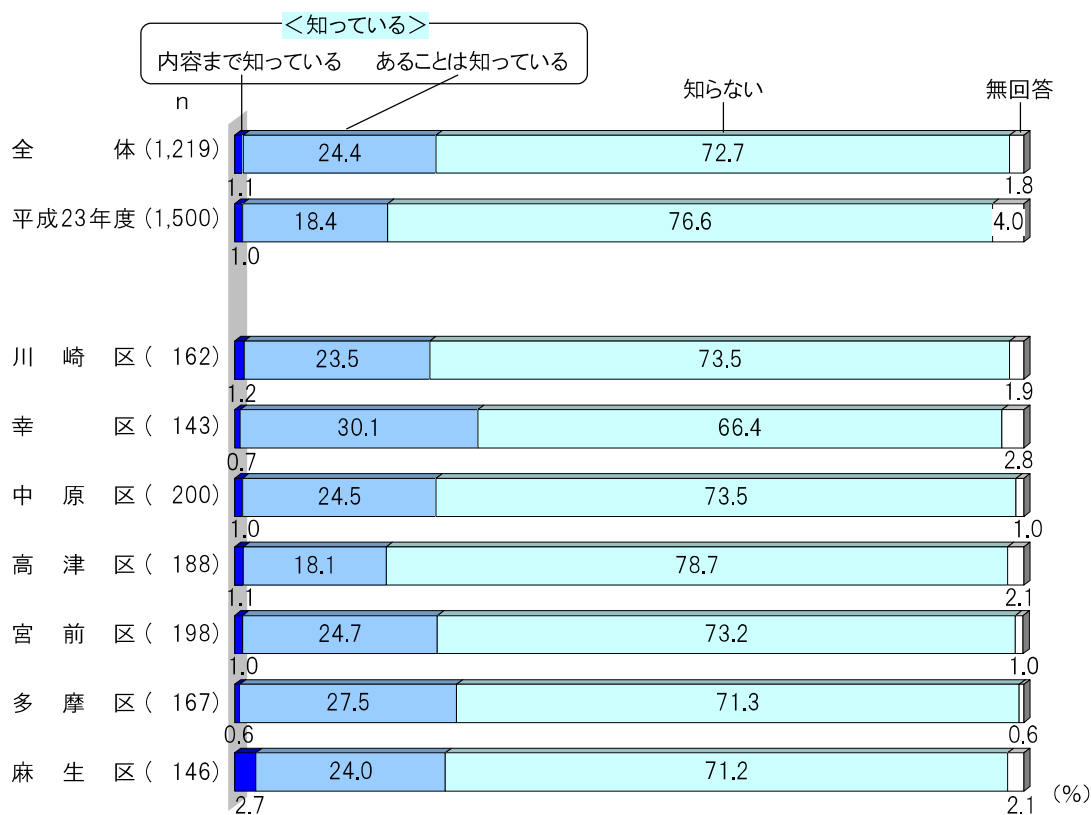


3 区民会議について

1 区民会議の認知状況

「内容まで知っている」(1.1%)と「あることは知っている」(24.4%)を合わせた<知っている>は25.5%で、平成23年度調査より6.1ポイント高くなっています。居住区別にみると、<知っている>は幸区(30.8%)で最も高くなっています。

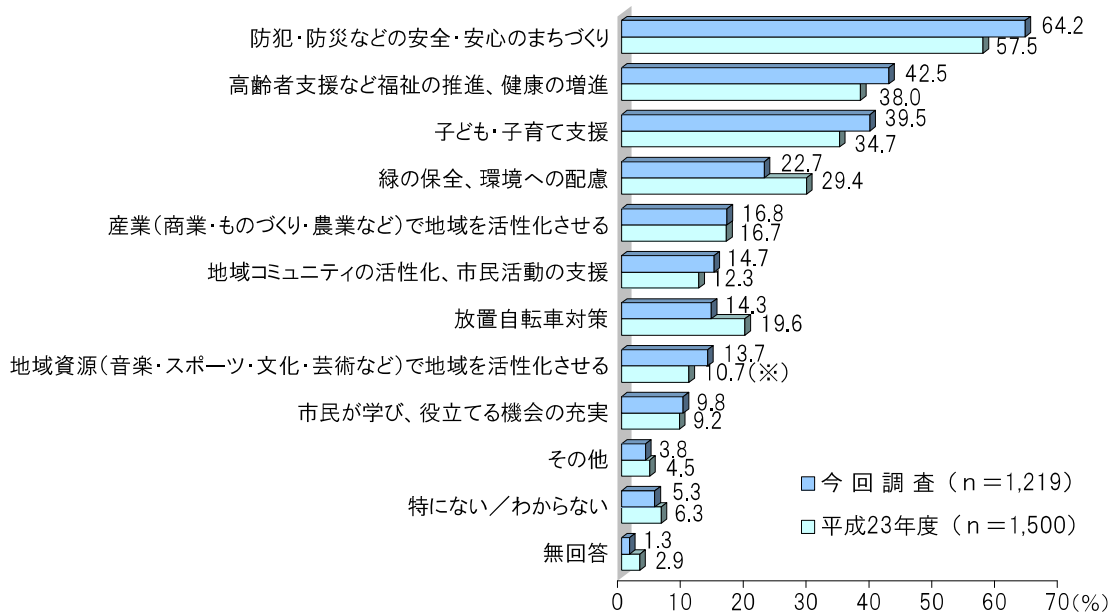
図9 (平成23年度との比較、居住区別)



2 区民会議で取り上げてほしい地域の課題

「防犯・防災などの安全・安心のまちづくり」(64.2%)が平成23年度調査と同様に最も高く、次いで「高齢者支援など福祉の推進、健康の増進」(42.5%)、「子ども・子育て支援」(39.5%)の順となっています。

図10 (複数回答、平成23年度との比較)

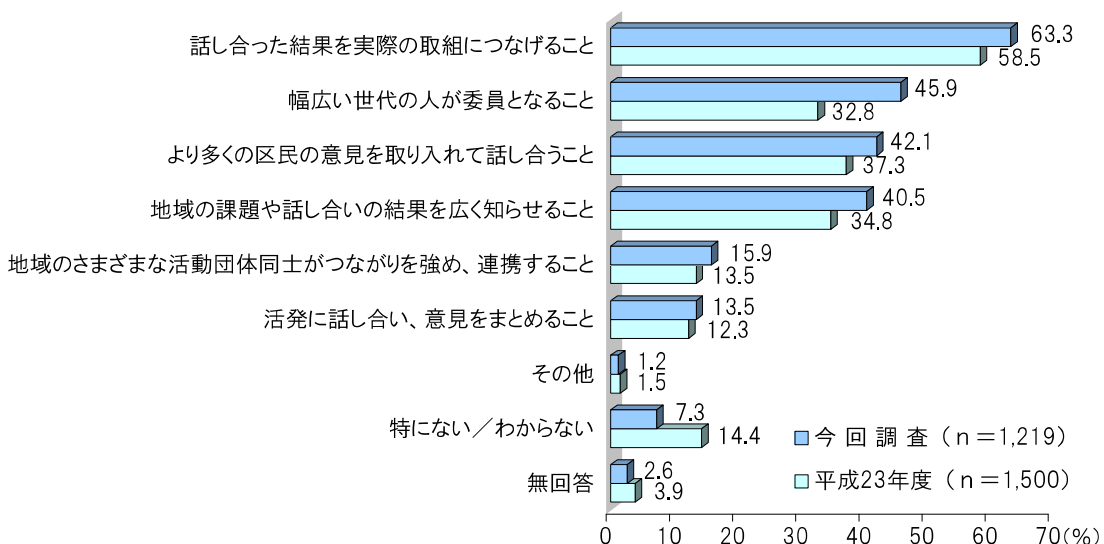


(※)「地域資源(音楽・スポーツ・文化・芸術など)で地域を活性化させる」の選択肢は、平成23年度調査では「歴史や文化、風景などの地域の魅力を高める」としていました。

3 区民会議に期待していること

「話し合った結果を実際の取組につなげること」(63.3%)が平成23年度調査と同様に最も高く、次いで「幅広い世代の人が委員となること」(45.9%)、「より多くの区民の意見を取り入れて話し合うこと」(42.1%)の順となっています。

図11 (複数回答、平成23年度との比較)

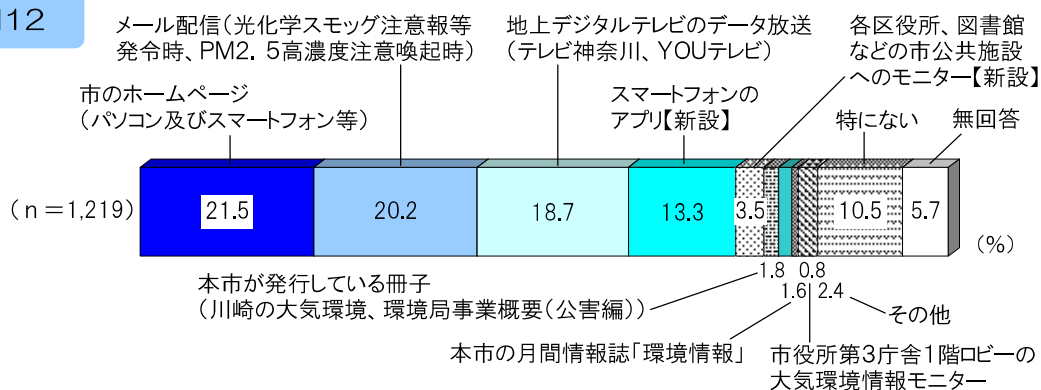


4 大気環境データの提供について

1 大気環境データを閲覧したい方法

「市のホームページ（パソコン及びスマートフォン等）」（21.5%）が最も高く、次いで「メール配信（光化学スモッグ注意報等発令時、PM2.5高濃度注意喚起時）」（20.2%）、「地上デジタルテレビのデータ放送（テレビ神奈川、YOUテレビ）」（18.7%）の順となっています。

図12

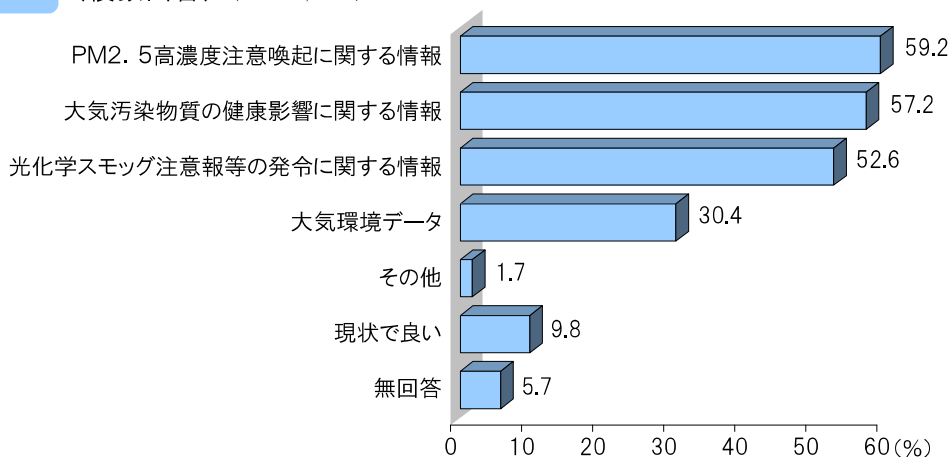


2 大気環境に関する情報で充実してほしいもの

「PM2.5高濃度注意喚起に関する情報」（59.2%）が最も高く、次いで「大気汚染物質の健康影響に関する情報」（57.2%）、「光化学スモッグ注意報等の発令に関する情報」（52.6%）の順となっています。

図13

（複数回答）（n=1,219）



平成26年度第1回かわさき市民アンケート概要版 平成26年10月

発行 川崎市総務局秘書部市民の声担当
 〒210-8577
 川崎市川崎区宮本町1番地
 電話 044-200-2291（直通）
 F A X 044-200-3919

かわさきの未来を考える市民フォーラム 開催結果概要

1. 開催概要について

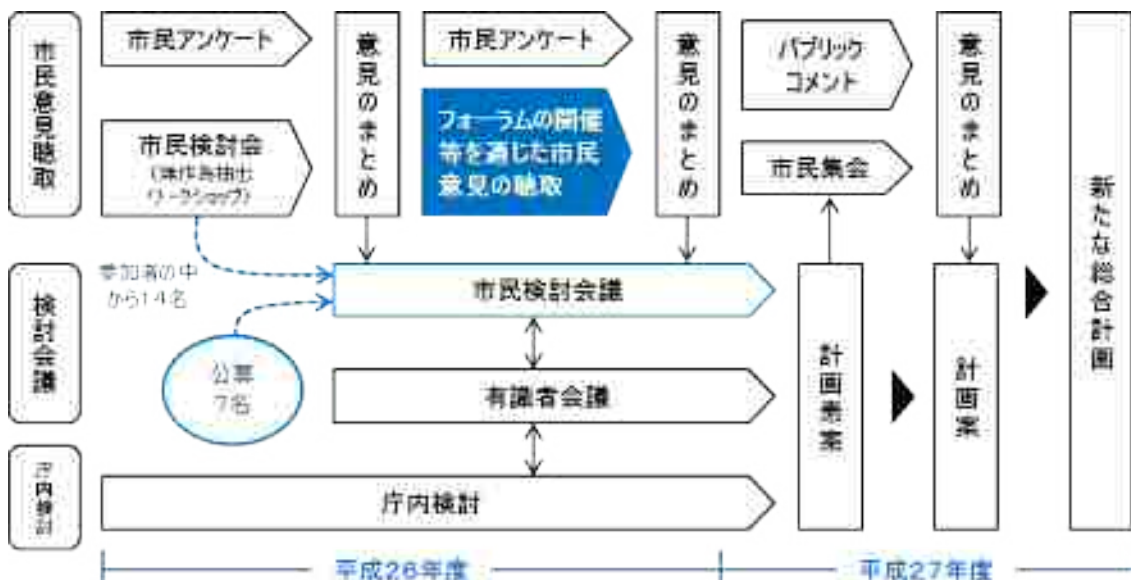
日時:平成 26 年 11 月 8 日(土)12:00~17:00

会場:川崎市高津市民館

- 新たな総合計画の策定に向けて、川崎市の現状や課題、魅力やポテンシャル、そして川崎の未来を、市民とともに考えていくため、フォーラムを開催しました。
- 当日は、かわさきの未来を考えるシンポジウムを開催したほか、展示コーナーでは、企業や大学などにも参加いただき、川崎のさまざまな魅力を紹介しました。

シンポジウム プログラム	
市長挨拶 「新たな総合計画について」:	福田 紀彦【川崎市長】
基調講演 「超高齢社会を見据えた地域づくり」:	田中 滋【慶應義塾大学名誉教授】
パネルディスカッション 「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき」	
コーディネーター	田中 滋 【慶應義塾大学 名誉教授】
パネリスト	園田 真理子 【明治大学 理工学部教授】
	磯崎 初仁 【中央大学 法学部教授】
	平尾 光司 【昭和女子大学 学事顧問】
	福田 紀彦 【川崎市長】
展示コーナー	
○川崎市制90年のあゆみの紹介	
○「一歩先へ もっと先へ」に向けた取組の紹介 ※ものづくり・すぐれた先端技術、文化・スポーツなどの川崎の魅力的な資源	
○かわさきの未来をつくる地域の力の紹介 ※公園体操、作って遊べる地域活動、保育園児の作品展示	
○新たな総合計画の策定に向けた市民からの意見の紹介	
○かわさきスタンプラリー など	
【協力企業・大学】味の素(株)、川崎信用金庫、大和ハウス工業(株)、富士通(株)、日本女子大学	

【参考：新たな総合計画策定スケジュール】



2. かわさきの未来を考えるシンポジウムについて

- 「新たな総合計画」について福田市長から説明を行ったほか、慶應義塾大学の田中滋名誉教授から基調講演をいただき、専門知識を持つ有識者によるパネルディスカッションを開催しました。
- 福田市長からは、シンポジウムの冒頭で、会場に詰めかけた約 300 人の市民に挨拶し、待機児童の解消・中学校完全給食の導入に向けた取組状況や、少子高齢化・厳しい財政状況などの課題に触れたうえで、「本市は多くのポテンシャルを持っている。東京オリンピック・パラリンピックの開催や、10 年後の市制 100 周年などを見据え、『最幸のまち かわさき』の実現に向けて取り組んでいきたい」と、新たな総合計画への基本的な考え方を説明しました。
- 慶應義塾大学の田中滋名誉教授の基調講演では、健康寿命後の余命の延伸や人口減少・少子高齢化により、このままでは介護保険をはじめとした日本の制度が立ち行かなくなる可能性を指摘したうえで、医療や介護、行政、市民などの連携による、支え合いの「地域包括ケアシステム」の重要性をわかりやすく説明し、地域包括ケアシステムの構築に向けて、「それぞれの主体が理念（ビジョン）を共有し、それぞれが覚悟を持って取り組んでいく必要がある」と、参加した市民に訴えかけました。
- また、田中滋名誉教授のコーディネートで行われたパネルディスカッションでは、それぞれのパネリストが専門の分野を中心に、全国的・世界的な動向を踏まえた川崎の未来について説明した後に、それぞれの分野を越えた議論を行いました。このような議論から市政運営のヒントをいただきながら、福田市長からは、「超高齢社会を見据えて、多世代が交流しながらいきいきと暮らせる『安心のふるさとづくり』を進めるとともに、先端研究機関や世界的企業、さらには多彩な技術を持つ中小企業が集積する川崎の特徴を活かした『力強い産業都市づくり』をバランスよく進めていきたい」と、市政運営の基本的な考え方の説明がありました。



↑ 市長から、新たな総合計画を説明



↑ 田中滋先生の基調講演



↑ パネルディスカッション ↑



3. さまざまな展示について

- 川崎市制90年のあゆみを写真と映像で紹介したほか、殿町地区のキングスカイフロントなどで取り組まれている最先端の研究や、文化・スポーツなどの川崎の魅力の紹介や、市民が主体となって取り組んでいる地域活動、これまで市民からいただいた総合計画に関する意見の紹介など、来場者が楽しめる工夫を凝らした、さまざまな展示を行いました。
- 展示コーナーには、約800名の方に御来場いただきました。家族連れが多く見られ、小さなお子さんがスタンプラリーや体験コーナーで歓声をあげ、大人の方は昔の写真や映像を見て懐かしむ一方で、川崎の先端技術やかわさき育ちの野菜といった川崎の多彩な魅力に驚くなど、会場は大いに賑わいを見せていました。



↑川崎市 90 年のあゆみを写真で展示



↑血中のアミノ酸濃度で、「がん」がわかる？



↑川崎が誇る、魅力的な資源を展示



↑介護セラピー用ロボットの紹介



↑懐かしい写真や映像を楽しむ来場者



↑市民による「作って遊ぼうコーナー」



↑これまでいただいた市民意見を展示



↑かわさき育ちの野菜をプレゼント

川崎市総合計画市民検討会議 第1回全体会 開催概要

■ 川崎市総合計画市民検討会議について

- これからの川崎の目指すべき方向やそのための取組内容を明らかにする新たな総合計画を策定するにあたり、市民目線での意見や助言をいただくことを目的として設置。
- 委員は、次の22名で構成。(別添の委員名簿を参照。)
 - 無作為抽出した市民による「川崎の未来を考える市民検討会」参加者14名
 - 公募市民7名
 - コーディネーター1名(中央大学法学部 磯崎初仁教授)
- それぞれ関心のある領域ごとに部会を構成し、全体会で意識の共有化や意見の集約を図る。また、市民検討会議の検討結果については、有識者会議等において市民の視点からの意見として活用する。
- スケジュール概要(予定)

平成26年10月4日	第1回全体会
11月1日	第1回部会(社会福祉(介護、健康))
12月	第2回部会(子育て、教育)
平成27年1月中旬	第2回全体会
2月中旬	第3回部会(暮らし、交通)
3月上旬	第3回全体会
5月	第4回全体会

■ 第1回全体会

<日時> 平成26年10月4日(土)9時30分~12時15分

<会場> 川崎市役所 第4庁舎 第6・7会議室

<概要>

○ コーディネーター挨拶

- 人口減少や財政規模の低下などの時代だからこそ、残された財源や人材をどううまく使うか、知恵を絞って総合計画を作り、役所と市民が共有することが必要。
- まちづくりは市民が主役なので、市民参加で検討することはたいへん重要な意味合いを持つ。



コーディネーター
磯崎初仁中央大学教授

○ 市からの説明

- 市より「新たな総合計画策定方針」「市民検討会における意見」「市の財政状況」の3点について、それぞれ説明を行い、新たな総合計画の策定に関する取組内容や市の状況について、委員間で認識を共有した。

○ 福田市長挨拶

- 各区の検討会に出てみると、子育て世代、シニア世代など、世代を超えてつながろう

という意識が高いことが共通して感じられた。

- ・ 今後財政も厳しくなる中で、多世代で結び付きあって、地域の工夫で住みよいまちをつくっていくことが重要となる。
- ・ 本日は、市民からその第 1 歩を踏み出そうという取組であり、ぜひ活発な意見交換をお願いしたい。



福田市長

○ グループディスカッション

- ・ 3 つのグループに分かれて、「将来を見据えて乗り越えなければならない課題」「積極的に活用すべき川崎のポテンシャル」「新たな飛躍に向けたチャンス」をテーマに、グループディスカッションを行った。



- ・ これまでに 7 区で開催された市民検討会での意見も付箋に書いて貼り出しておき、それらを踏まえて各委員が意見を追加して、意見交換を行った。そのうえで、各委員上位 3 位の意見にポイントシールを貼り、各委員の問題意識がどこに集まっているのか明示しつつ検討を進めていった。
- ・ 「課題」については、「PR が不足している」「情報が届いていない」といった情報発信に関する意見が多く出された。その解決には、川崎のイメージ・アイデンティティを確立することが必要であり、川崎の人材や活動を活用することが大事との意見も多く出された。
- ・ また、「少子高齢化・人口減少への転換」について、高齢者が力を発揮し、安心して暮らしやすい社会を実現するとともに、多世代交流により地域のつながりをつくることが重要といった意見が多く出された。また、子育て環境を整備し、若年層に来てもらうことが必要といった意見も多く出された。
- ・ 「ポテンシャル、チャンス」については、先端産業の集積を生かして、企業と地域をつなぐことが重要という意見や、交通・物流の利便性を生かして、東京や横浜と連携しつつ独自性を発揮すべきという意見、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、観光等の取組ができないか、という意見などが多く出された。

○ コーディネーターまとめ

- ・ 各グループに共通する 3 つのキーワードがあった。
- ・ 1 つは交流・コミュニケーション。新旧住民の対話や北部と南部の交流、さらには企業と地域との連携の話があった。
- ・ 2 つ目は世代。多世代交流という話が出た。高齢者の中にもさまざまな高齢者がいるので、中身をよく見ていくべきという提起があった。
- ・ 3 つ目が PR・イメージ。海外にも通用する川崎らしさを確立し、行政からだけでなく、市民からも伝えていくことも大事と感じた。



コーディネーター
磯崎初仁中央大学教授

(以 上)

グループディスカッションにおける意見まとめの概要

- グループディスカッションでは、各グループで「今後の議論をするうえで大切にしたいポイント」について、それぞれまとめを行った。（詳細は別添資料を参照。）
- ここでは、各グループで出された意見を、コーディネーターによる3つの共通のキーワードに沿って分類し、それらに該当しない意見をさらに3つに分類して整理した。

①交流・コミュニケーション

コミュニティのつながりを → そのためのコミュニケーションの機会を!! 3G

- 市の取り組みについて、もっと情報発信やPRが必要
- 民(民間企業・市民活動)の取組も、お互いに知り合う必要がある。

ハイテク企業と地域のつながりをつくる(“シリコンリバー”) 2G

- 川崎にはシリコンバレーに匹敵するハイテク企業が集積しているが、企業には川崎にいるという意識がない。一方、地域の側、市民の側にも、企業に対する意識がない。双方の「地場意識」の涵養が重要。
- 子どもにおける地元のハイテク企業への理解が深まれば、子どもの学力向上につながることも期待できる。さらに郷土愛の醸成、ひいては定住促進につながる、税収増にもつながる。

②世代

場づくり・機会づくりによる多世代交流 1G

- 高齢者と子供の交流による子育て環境充実と高齢者の生きがいづくり
- 空き施設を活用した交流の場となる空間の確保

「市民」「川崎」をひとつくりにせず、状況に応じた取組を!! 3G

- インフラ整備も違いへの配慮が必要(南北の差、地勢や地理、人口構成の異なり)
- 高齢者には、「支援が必要な高齢者」と、「活躍の場」が必要な元気な高齢者が存在する。対象を細分化して施策を考える必要があるのでは？

子育てから、世代間交流で、高齢者と子どもをつなぐ 2G

- 「子育てと防災の拠点」などの「場づくり」
→ ソフト/ハードにわたる多機能化
- 福祉にもつながる。
- 高齢者と子どもをつなぐことには、財政的な効果もある。

③PR・イメージ、発信

イメージアップと川崎らしさのPR 1G

- かわさき及び「かわさき人」のイメージアップ
- 川崎の特徴のPR

「立地」への着目 → 他都市と連携しながら川崎らしさを! 3G

- 東京と横浜に挟まれている環境で、外から見ると「川崎らしさ」や「個性」が埋没しがち。
- 『川崎らしさ』を市民が誇れるように → 「シンボル」となるものをつくる必要があるのでは？
- 『公害のまち川崎』に代わるキャッチフレーズをつくり、浸透させる機会にしたい

自然発生的なPRで、広がる・伝わる 2G

- 上記の「場づくり」のような、市民の中で自然に生まれたものをPRする。(無理なPRをしない)
- こうした市民主体のPRに対して、行政のPRをミックスして、相乗効果を発揮。

災害時の情報の伝達 1G

- 情報提供による自助、共助の促進

④資源(人材、地域資源等)の活用

市内の人材の活用 1G

- 子育て支援など、元気な高齢者を増やし、活用する
- 市内在住のプロ人材など地域の人材を有効活用する

河川敷を活用して、川崎の魅力を発信する 2G

- 河川敷を生かしてイベント等を開催する。行政は、河川敷を整備し、場の提供を。
- 仮設テントなどを使えばお金をかけずにできる。工夫すれば、市民や企業からお金を出してもらうこともできる。
- 東京オリンピックが始まれば、都内には落ち着ける場所はなくなる。人ごみに疲れた人にとって、川崎の緑や音楽は大きな魅力になる。それらを生かしたイベントを開催し、PRすべき。

オリンピック・パラリンピックの活用 1G

- オリンピック・パラリンピックのインパクトを活用した観光振興

資源(芸術・スポーツ・自然)のネットワーク化による活用 1G

- プロチーム(フロンターレ)や施設などスポーツ資源の活用
- ミュージアムの活用
- 自然環境の保全と活用
- 上記のような点在する資源のネットワーク化による有効活用

遊休資源がある!! 3G

- 民間企業が有している遊休の土地建物の活用を促す必要があるのでは？
- 市の資産も十分活用されていない。(文化施設など)
- 遊休資源には、土地、建物だけではなく、人材も含まれているのでは？ 大学や企業人材の活用が必要。

⑤生活環境

すべての世代が安心できる医療 1G

- 老後の不安がなく、一人暮らしでも安心できる環境の確保

交通利便性の強化と地域間連携等への活用 1G

- 広域交通利便性の強化、活用と地域連携の促進
- 道路網整備や公共交通機関の活用など地域交通の充実

子どもが安心して遊べる環境と充実した教育環境の提供 1G

- 学校以外に子供が外で安心して遊べる環境の整備
- 充実した教育環境

⑥実行性

どこまでだったらできる? → 財政状況は? 本当にできるの? 3G

- 議論をする際に、あれもこれもではなく、現実性のある提案にしたい。そのためには財政状況にも配慮が必要なのでは？

具体的なアクションを考えたい!! 3G

川崎市総合計画市民検討会議委員名簿
 (平成26年10月から平成28年3月まで)

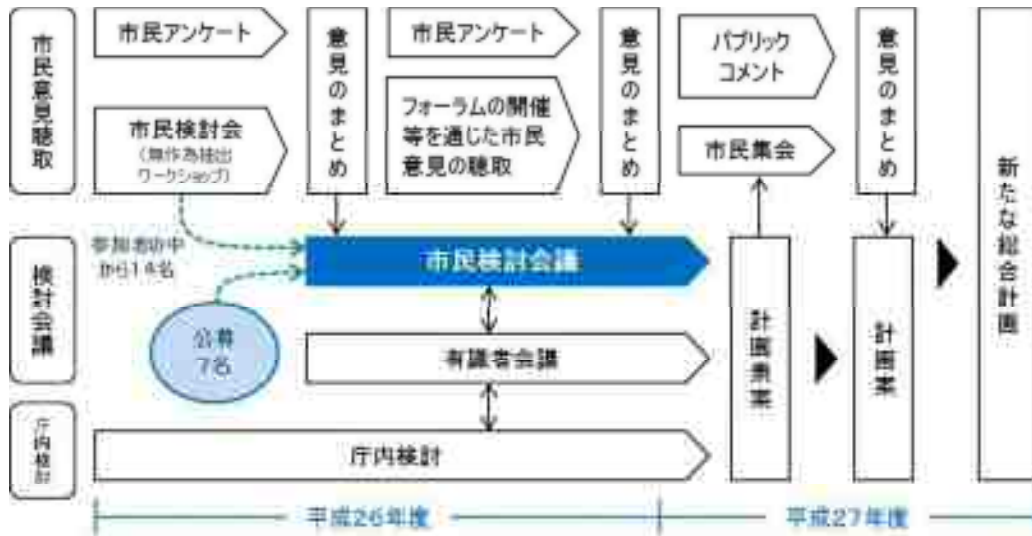
No.	氏名(敬称略)	備考
1	萩原 蓮	川崎区在住(市民委員)
2	小田 亨	川崎区在住(市民委員)
3	外山 倫美	川崎区在住(市民委員)
4	青柳 昇三	幸区在住(市民委員)
5	加藤 英雄	幸区在住(市民委員)
6	新堂 征人	幸区在住(市民委員)
7	川島 丑二	中原区在住(市民委員)
8	馬場 直子	中原区在住(市民委員)
9	松本 玲子	中原区在住(市民委員)
10	岡田 義二	高津区在住(市民委員)
11	飯田 眞	高津区在住(市民委員)
12	片山 莉絵	高津区在住(市民委員)
13	長谷川 美子	高津区在住(市民委員)
14	加藤 落照	宮前区在住(市民委員)
15	辻 麻里子	宮前区在住(市民委員)
16	長野 敏幸	宮前区在住(市民委員)
17	小池 朋子	多摩区在住(市民委員)
18	山本 博子	多摩区在住(市民委員)
19	長木 直子	多摩区在住(市民委員)
20	加藤 美奈	麻生区在住(市民委員)
21	山本 千穂	麻生区在住(市民委員)
22	森岡 初仁	中央大学法学部教授

川崎市総合計画市民検討会議 第1部会 開催結果

日時:平成 26 年 11 月 1 日(土)13:30~17:15
会場:川崎市役所 第 4 庁舎 第 6・7 会議室

1. 「川崎市総合計画市民検討会議」について

- これからの川崎の目指すべき方向性や取組を明らかにする「新たな総合計画」の策定にあたり、市民の視点での意見や助言をいただく場として、「川崎市総合計画市民検討会議」をスタートしました。
- 「市民検討会議」では、部会による議論を行うほか、全体会で意識の共有化や意見の集約を図るとともに、別途設置する「川崎市総合計画有識者会議」と検討内容を共有化し、市民の視点からの意見として活かしていきます。



2. スケジュール

- | | |
|------------------------|------------------------------------|
| 平成 26 年 10 月 4 日 (開催済) | 第 1 回全体会 |
| 11 月 1 日 (開催済) | 第 1 部会 (社会福祉 (介護、健康)) |
| 12 月 21 日 | 第 2 部会 (子育て、教育) |
| 平成 27 年 1 月 25 日 | 第 2 回全体会 (第 1、第 2 部会の共有と防災・コミュニティ) |
| 2 月 8 日 | 第 3 部会 (暮らし、交通) |
| 3 月 1 日 | 第 3 回全体会 (第 3 部会の共有など) |

3. 会議の構成

- 会議は下記のとおり、市民 21 名とコーディネーター (学識経験者) 1 名の計 22 名で構成されています。

公募市民	7 名
無作為抽出した市民による「川崎の未来を考える市民検討会」参加者	14 名
コーディネーター (中央大学法学部教授・川崎市在住 磯崎初仁氏)	1 名

※ 20 代～70 代の市民。各区概ね均等な人数で、男性 11 名・女性 10 名 (コーディネーターを除く)

- 第1部会（社会福祉（介護、健康））については、下記のとおり市民委員11名が2グループに分かれてディスカッションを行いました。

1グループ (6名)	加藤浩照委員、山下博子委員、片山利昭委員、長谷川秀子委員、青柳昇二委員、外山瑠美委員
2グループ (5名)	飯田真委員、辻麻里子委員、新富征人委員、小池朋子委員、川島弘一委員

4. 第1部会の開催結果

(1) コーディネーターあいさつ

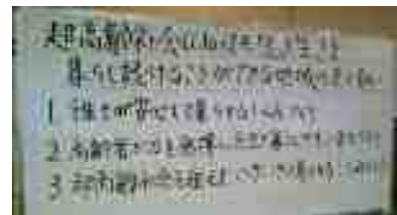
- 会議の総合調整を担っていただく中央大学の磯崎教授からは以下のようなお話をいただきました。
 - 今回は『社会福祉』のテーマに絞って、ディスカッションを中心に進行する
 - 職員も同席し、時間を取ってじっくりと深掘していきたい



コーディネーターの
磯崎初仁中央大学教授

(2) グループディスカッション

- 2つのグループに分かれて、「誰もが安心して暮らせるしくみづくり」「高齢者が力を発揮し、元気で暮らしやすいまちづくり」「超高齢社会を迎えて、いきいきと暮らせるしくみづくり」の3つをテーマに、グループディスカッションを行いました。



3つのテーマ



①市の職員から市の状況について説明



②みんなで意見を出し合います



③意見を模造紙にまとめていきます

- 主な意見としては、以下のようなものがありました。

- テーマ1「誰もが安心して暮らせるしくみづくり」

グループ1

- ✧ 困っている人の情報が把握できないことが問題であり、挨拶や声かけで地域での関係をつくとともに、気軽に集まれるところを地域につくることが重要。
- ✧ ボランティアや見守りをやってもよいという人は多いため、行政が情報提供を行うとともに、それらを地域でコーディネートする力の育成が必要。
- ✧ 家族・地域・行政が連携し、予防・事前対策に取り組むことが重要。



グループ2

- ◇ 高齢者自身が、元気なうちに介護や福祉の情報を知ろうとする意識が大切ではないか。
- ◇ 地域で支えあうためには、介護が必要になる前からのご近所との関係づくりが重要ではないか。
- ◇ 行政による支援は充実しているが、情報が届いていない。届け方に工夫が必要ではないか。
- ◇ 介護を担う専門人材を確保する仕組みづくりが必要なのではないか。



➤ テーマ2「高齢者が力を発揮し、元気で暮らしやすいまちづくり」

グループ1

- ◇ 高齢者が参加したくなる仕組みづくりが重要であり、地域にコーディネーターが必要。地域にはいろいろなスキルや経験を持った高齢者がいるため、地域シルバーセンターを設置して、「地域の便利屋集団」にしてはどうか。
- ◇ 高齢者が外に出て、交流することが元気の源になる。そのためのやる気を起こすしかけづくりが必要。タウンニュースなどの地域情報紙による発信を強化したり、行政の業務の一部を高齢者に委託したりしてはどうか。

グループ2

- ◇ 高齢者の“出番”を作ることが大切。町内会など地域での活動や、ボランティア活動など、高齢者が自分のスキルや経験を発揮できる機会を創出する必要がある。
- ◇ 世代を超えて繋がりをつくるのが大切。保育園・幼稚園・学童などと、老人施設を近い場所に置くなどしてはどうか。
- ◇ 行政は交流の場ときっかけを提供し、あとは市民同志が連絡して、世代を超えたナナメの関係、コミュニケーションの場を作り出していければいい。

➤ テーマ3「超高齢社会を迎えて、いきいきと暮らせるしくみづくり」

グループ1

- ◇ 食生活の改善や運動とともに、検診を促進することが重要。検診に足が向かない高齢者がいるため、区民祭への検診の出店や大学と連携による出張検診はどうか。
- ◇ 子ども・若年層との交流促進が重要であり、小学生とのコラボや高齢者と若者のシェアハウスなどが有効ではないか。
- ◇ 他地域との交流や施設の相互利用など、広域的な調整も重要。

グループ2

- ◇ 高齢者が日常的に地域に出ていく機会を創ることが必要。例えば地元商店と連携した買い物ポイントなどを作ってはどうか。
- ◇ 高齢者だけではなく、子どもも女性も集まる場が必要。コミュニティキッチンなどの気軽な多世代交流の場を作ってはどうか。
- ◇ 運動のきっかけづくりのために、生田緑地や多摩川など川崎市内の自然資源を活用したイベントを行ってはどうか。また日常的な運動機会をつくるため、多摩川にスポーツ拠点を設けてはどうか。



(3) 成果の発表、シール投票、コーディネーターまとめ

- 各グループの代表者から成果発表を行った後、シール投票を行いました。



グループの代表者による発表



グループ発表後のシール投票

- 最後に、コーディネーターの磯崎教授から、話し合いの内容をキーワードで総括していただきました。
 - テーマ1:「情報の共有」「人間関係」
 - …支援が必要になる前からの関係づくりが重要。個人情報保護の壁があるからこそ、日頃からのコミュニケーションが大切である。
 - テーマ2:「出番」「場づくり・きっかけづくり」
 - …主体はあくまでも市民であり、出番をつくることが重要。そのきっかけづくりは地域や行政が行う。
 - テーマ3:「メリットと見える化」
 - …民間も力を出しながら、メリットを感じるために見える化をすることが重要。高齢者やその予備軍のやる気を引き出すことが必要。



グループのまとめ

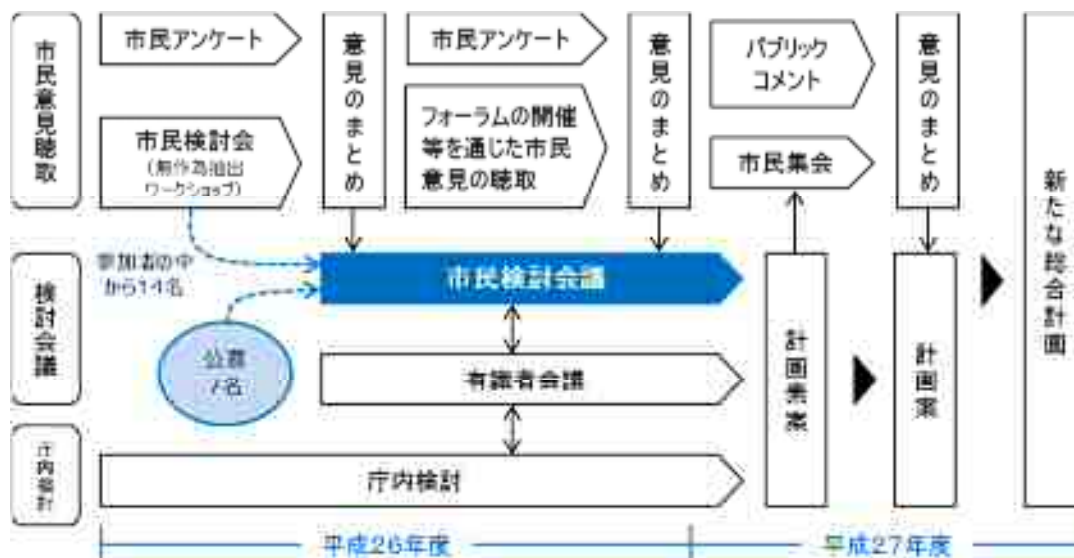
→ 本部会の成果は、第2回全体会に報告し、市民検討会議全体で共有し、話し合いに反映させます。

川崎市総合計画市民検討会議 第2部会 開催結果

日時:平成 26 年 12 月 21 日(日)9:00~12:30
会場:高津区役所 5 階 第 2・3 会議室

1. 「川崎市総合計画市民検討会議」について

- これからの川崎の目指すべき方向性や取組を明らかにする「新たな総合計画」の策定にあたり、市民の視点での意見や助言をいただく場として、「川崎市総合計画市民検討会議」をスタートしました。
- 「市民検討会議」では、部会による議論を行うほか、全体会で意識の共有化や意見の集約を図るとともに、別途設置する「川崎市総合計画有識者会議」と検討内容を共有化し、市民の視点からの意見として活かしていきます。



2. スケジュール

平成 26 年 10 月 4 日 (開催済)	第 1 回全体会
11 月 1 日 (開催済)	第 1 部会 (社会福祉 (介護、健康))
12 月 21 日	第 2 部会 (子育て、教育)
平成 27 年 1 月 25 日	第 2 回全体会 (第 1、第 2 部会の共有と防災・コミュニティ)
2 月 8 日	第 3 部会 (暮らし、交通)
3 月 1 日	第 3 回全体会 (第 3 部会の共有など)

3. 会議の構成

- 会議は下記のとおり、市民 21 名とコーディネーター (学識経験者) 1 名の計 22 名で構成されています。

公募市民	7 名
無作為抽出した市民による「川崎の未来を考える市民検討会」参加者	14 名
コーディネーター (中央大学法学部教授・川崎市在住 磯崎初仁氏)	1 名

※20代~70代の市民。各区概ね均等な人数で、男性11名・女性10名 (コーディネーターを除く)

- 第2部会（子育て、教育）については、下記のとおり市民委員11名が2グループに分かれてディスカッションを行いました。

1グループ (7名)	小山了委員、山下博子委員、荻原進委員、馬場直子委員、 加藤英雄委員、長谷川秀子委員、長野敏幸委員
2グループ (7名)	松本玲子委員、新富征人委員、外山瑠美委員、加藤浩照委員、 小池朋子委員、岡田義一委員、山下千裕委員

4. 第2部会の開催結果

(1) コーディネーターあいさつ

- 会議の総合調整を担っていただく中央大学の磯崎教授からは以下のようなお話をいただきました。
 - 今回は『子育て・教育』をテーマに、子どもをめぐる環境をどう整えていくか、子どもにとって良いまちづくりをどう進めていくか、を大きなポイントとしてディスカッションを進行する。



コーディネーターの
磯崎初仁中央大学教授

(2) グループディスカッション

- 2つのグループに分かれて、「子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり」（主に就学前）、「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」（主に学校教育）、「若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために」（主に若者）の3つをテーマに、グループディスカッションを行いました。



①市の職員から市の状況について説明



②みんなで意見を出し合います



③意見を模造紙にまとめていきます

- 主な意見としては、以下のようなものがありました。

➢ テーマ1「子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり」（主に就学前）

グループ1

- ◇ 待機児童をゼロにすることは必要であるが、保育所に入るための要件が厳しかったり、病児保育が不十分だったりする課題がある。さらに一歩進んで、待機児童に対する不安をゼロにする、“実感ゼロ”を目指すべき。
- ◇ 子育てをしている親や子どもに寄り添って、その多様な状況に応じて「伴走」するように地域・行政が支えるしくみづくりが重要。



- ◇ 子育てをサポートしたいと思うベテラン世代もおり、子育てを気軽に相談できるネットワークづくりが重要。
- ◇ 公園でボール遊びができなかったりするなど、遊び場の制約がある。さまざまな年代の子どもが安心・安全に楽しく遊べる場づくりが重要。

グループ2

- ◇ 核家族化が進む中で地域の高齢者も含めた交流の場づくり、集まれる環境づくりが大切。
- ◇ 周辺の自治体とサービスの違いがあり、川崎市として必要な福祉サービスを見極め、その戦略についての市民とのコミュニケーションが必要。
- ◇ 公立よりも私立の保育園が増えている中で、保育の質を確保し、安心して預けられる保育環境を整備することが重要。
- ◇ 税収や利用者負担以外のもの、たとえば保育園や公園のネーミングライツなどによって財源を捻出するなど、子育てサービスを支える財源を多元化することが重要。



➤ テーマ2「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」(主に学校教育)

グループ1

- ◇ 川崎市にはハイテク企業や文化芸術などの魅力的な資源がたくさんあるため、これらを最大限に生かして、子どもたちが将来こうなりたい、こういう仕事に就きたいというビジョンや夢を育む体験の場を提供することが重要。
- ◇ 子どもの主体性や創造性を養うことが大切であり、そのための遊びや余暇の時間を地域で提供できるように行政がサポートしていくことが必要。
- ◇ 学力については、多様な子どもの状況に応じて、「100%わかる」を目標にしたい。学力・人間力の向上に向けて、地域・学校が一体となって取り組む必要がある。



グループ2

- ◇ 学校だけでなく、地域でコミュニティスクールの拠点をつくり、高齢者や企業人、ボランティア等の地域のいろいろな人材が学校教育に関わる機会をつくることが重要。
- ◇ 子どもが生きがいを持って生きていくためには、自尊心としつけを身につける学びを中心においたカリキュラム・学校運営が重要。
- ◇ 先生が忙しく、授業準備以外にも書類整理やモンスターペアレントなどへの対応に追われることも多く、自信をなくしがちなため、まずは先生に自信を持ってもらうことが大切。

➤ **テーマ3「若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために」(主に若者)**

グループ1

- ◇ 根幹は、幼少期から小学生の時期をどう過ごすかにある。心のよりどころとなる「ふるさと」が必要であり、家庭が大事であることはもちろん、多世代・多機能が交流し気軽に集まり相談できる場を、地域と行政がいかに形成できるか。
- ◇ 多様な職業があり、それに従事する人の話を聞くことで働くよろこびや価値観が形成される。子どものころから、親以外のいろいろな人から教えてもらえる場をつくることが重要。
- ◇ それらを支えるコミュニティづくりが重要であり、子育てを軸として、シニアなどいろいろな市民が集まって、ふるさとや多様性を学べたり、学力不足を補えたりする場になるとよい。学童保育の場をプラザ化してはどうか。
- ◇ ポイントは、行政と地域と家庭が負担を分担することで、一か所に集中しない仕組みづくりである。

グループ2

- ◇ 「辛い状況にある人を独りにしない！」ということで、困難な状況にある若者を抱える家族を地域で支え、独りにしないことが重要。地域で引きこもっている人の能力を引き出し、外に出ていく機会を教えることができるとうい。
- ◇ 働くよろこび・仕事に対するやりがいを見つける機会をつくるため、具体的な形で中間就労の機会をつくり、働くことをリアルに感じる情報提供や体験機会を教育段階で多様に用意すべき。
- ◇ 「若者の自立」に家庭・地域・行政・民間が横断的に取り組む必要があり、その財源としては国や市で役割分担をした方がよい。



(3) 成果の発表、シール投票、コーディネーターまとめ

- 各グループの代表者から成果発表を行った後、シール投票を行いました。



グループの代表者による発表



グループ発表後のシール投票

- 最後に、コーディネーターの磯崎教授から、今回のテーマは目標そのものが多様で、単一的な価値観では決められず、柔軟に考える必要のあるテーマであったとのご感想とともに、話し合いの内容をキーワードで総括していただきました。
 - **テーマ1:「伴走」**
…子育ての環境や家庭は多様なため、画一的に支えるのではなく、本人の立場に立ち、それぞれの家庭の状況にあわせて相談に応じて「伴走」することになる。これは青年期の「独りにしない」にもつながる普遍的キーワードである。
 - **テーマ2:「場づくり」**
…遊び場をつくる、大人がかかわる機会をつくる、ということにもつながる。地域に開かれた学校運営も、1つの「場づくり」である。
 - **テーマ3:「実感・リアル」**
…「働くリアリティを感じる」という意見があり、「働くよろこび」という言葉も出ていた。実感してもらわないと人は成長せず、本当の自立・教育は成り立たない。



グループのまとめ

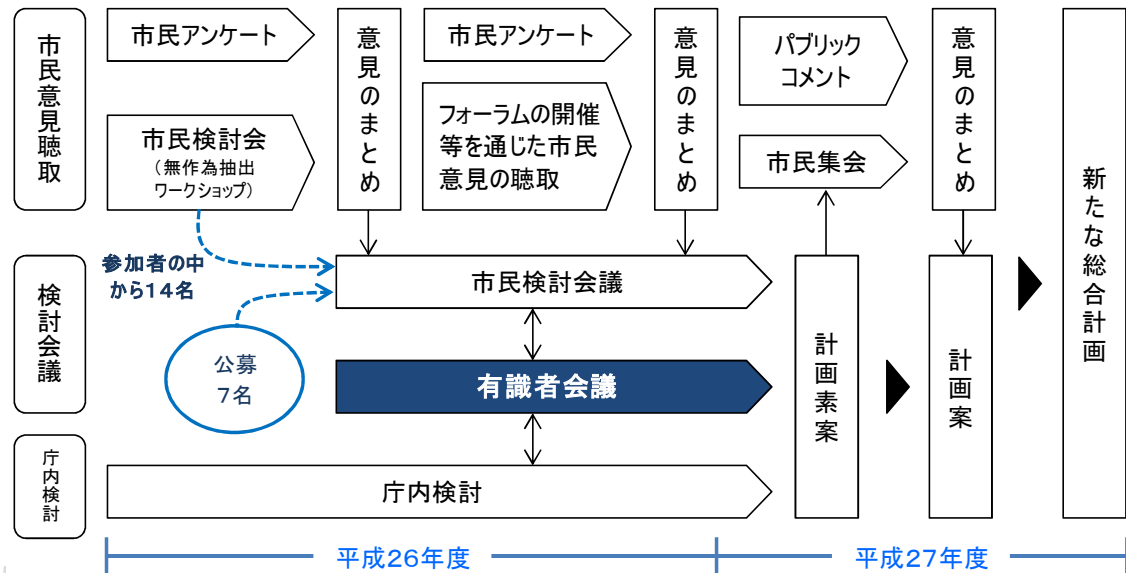
→ 本部会の成果は、第2回全体会に報告し、市民検討会議全体で共有し、話し合いに反映させます。

川崎市総合計画有識者会議 第1回会議 開催結果概要

日時:平成 26 年 10 月 27 日(月)16:00~18:00
会場:川崎市役所 第4庁舎 第3会議室

1. 「川崎市総合計画有識者会議」について

- これからの川崎の目指すべき方向性や取組を明らかにする「新たな総合計画」の策定にあたり、専門的な意見や助言をいただく場として、「川崎市総合計画有識者会議」をスタートしました。
- 「川崎市総合計画有識者会議」では、それぞれの政策分野の重点テーマを中心に検討を行います。
- また、新たなアイデア等を創造する場として、ゲストアドバイザー等を招いた「ラウンドテーブル」を各回の会議と並行する形で開催していきます。
- 併せて、別途設置する「川崎市総合計画市民検討会議」と検討内容を共有しながら、新たな総合計画の検討を進めていきます。



2. スケジュールについて

平成 26 年	10 月 27 日 (開催済)	第 1 回会議 (策定方針、全国的な動向、市の概況)
	10 月 29 日 (開催済)	第 1 回ラウンドテーブル (医療・介護連携)
	11 月 27 日	第 2 回ラウンドテーブル (社会デザイン)
平成 27 年	2 月 1 日	第 2 回会議 (社会福祉、子育て支援・教育等)
	3 月 13 日	第 3 回ラウンドテーブル (都市拠点、交通体系)
	3 月 23 日	第 3 回会議 (まちづくり・防災等)
	4 月 (予定)	第 4 回ラウンドテーブル (イノベーション)
	5 月 (予定)	第 4 回会議 (産業・経済等)
	6 月 (予定)	第 5 回ラウンドテーブル (自然共生・住民自治)
	7 月 (予定)	第 5 回会議 (緑・環境・文化・住民自治等)
	7 月 (予定)	第 6 回会議 (素案について、進行管理)

3. 委員

- 会議は下記の有識者により構成されています。 ※座長・副座長以外は50音順

氏名（敬称略）	分野	役職等
涌井 史郎（座長）	ランドスケープ・環境	東京都市大学 環境学部 教授
出石 稔（副座長）	地方自治・地方行財政・コミュニティ	関東学院大学 副学長・法学部 教授
秋山 美紀	社会福祉・ソーシャルデザイン	慶應義塾大学 環境情報学部 准教授
垣内 恵美子	文化・教育	政策研究大学院大学 政策研究科 教授
中井 検裕	都市計画・交通計画	東京工業大学大学院 社会理工学研究科 教授
平尾 光司	地域経済・産業振興・イノベーション	昭和女子大学 学事顧問

4. 会議開催結果について

(1)市長挨拶

- 福田市長から、「10年間を見通した財政状況は非常に厳しく、限られた予算の中で、いかに効率的、効果的に地域経営を進めていくかが課題となる。市民の皆さんと地域の情報を共有することが重要なので、市民検討会議・有識者会議と上手にコラボレーションしながら、「先進都市川崎」らしい良い計画を作っていきたい」と挨拶がありました。

(2)座長あいさつ

- 座長に選任された涌井委員から、「市長から『先進都市川崎』というお話があったが、この『先進』をどう読み取るかということが我々の役目であり、『課題解決先進都市川崎』としてのベクトルを示せればと思う」とのご挨拶をいただきました。



座長 涌井史郎東京都市大学教授

(3) 主な意見

***川崎の発展を支える産業の振興について**

- 川崎はイノベーション力が強く、人口などは減少していくが、イノベーションによりカバーできる
- KSP からキングスカイフロントまで世界の先端技術都市として打ち出していくべき
- 羽田空港のインパクトを川崎にどれだけ取り込めるかが課題

***魅力ある都市拠点の整備と快適な地域交通環境づくりについて**

- 川崎市は人口の流入が多いが、定住市民ばかりでなく、若い間だけ川崎で暮らす人や、昼間に川崎で働く人なども大事にし、市外にも川崎の応援団を増やすことが重要

***参加と協働による市民自治の推進について**

- 市民検討会の意見でも、何かをやってもらいたい、ではなく、何かができる、やりたいたいという人が多く、これは川崎の強み
- 公助だけでなく、住民自身がお互いに支え合う共助の仕組みと、自助の構図をどのようにつくっていくのが重要
- 今後、行政には、いろいろな主体をコーディネートする役割が求められる
- 市内にある大学や、昔より元気で社会貢献意識の高い高齢者は貴重な資源であり、シニアパワーと学生パワーを結びつけた取組が有効
- 高齢者の豊かな経験を地域に還流する仕組みづくりが必要
- これからは量ではなく質を追求する時代であり、人口の急増や急速な経済成長の時代は終わり、ノーマルトレンドへのソフトランディングが必要
- 人口減少や財政収支の悪化に対応していくためには、住民の視点に立った大胆な思考転換が必要

***区における総合行政の推進について**

- 各区の人口動態が異なるので、それぞれの特長をどのように伸ばしていくのが課題

***川崎の都市構造**

- 東京圏における川崎市は、他都市と機能分担し、ポテンシャルを引き出していくことが重要
- 南部は産業拠点、北部は住宅地におけるシニアパワーの活用など、地域ごとの多様性を生かした計画づくりが有効

***最幸のまちとは**

- 人が生きていく中で必要とされ、役割があると実感できる社会が求められる
- 豊かさの拡大は限界であり、個人が豊かさを深め、それを実感できること(自己実現)、豊かさに対する価値観を転換することが重要

川崎市総合計画有識者会議

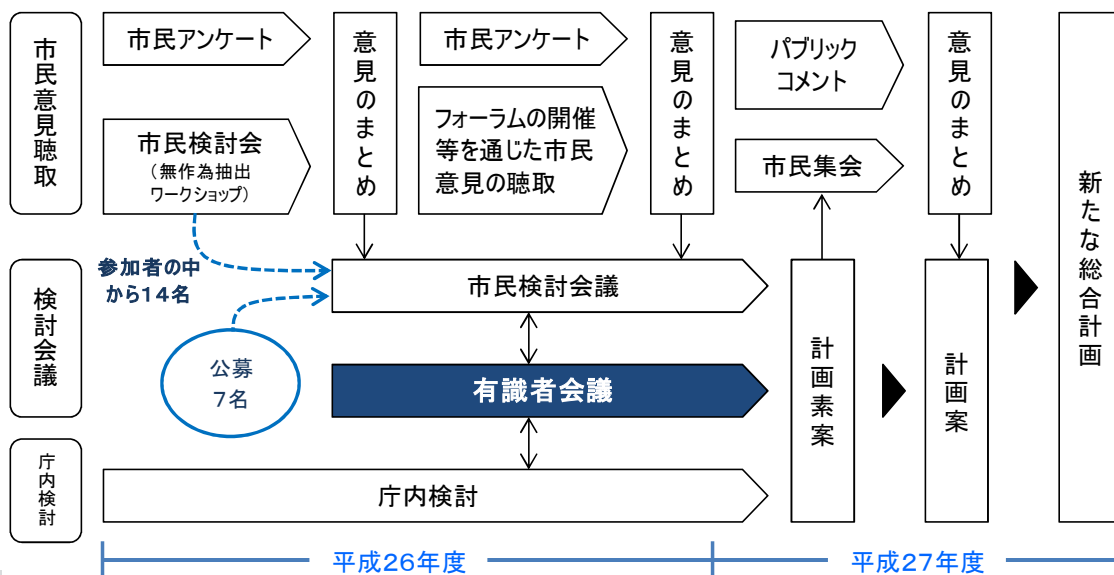
日時:平成 26 年 10 月 29 日(水)18:00~20:00

会場:川崎市役所 第4庁舎 第3会議室

第1回ラウンドテーブル開催結果概要

1. 「川崎市総合計画有識者会議」について

- これからの川崎の目指すべき方向性や取組を明らかにする「新たな総合計画」の策定にあたり、専門的な意見や助言をいただく場として、「川崎市総合計画有識者会議」をスタートしました。
- 「川崎市総合計画有識者会議」では、それぞれの政策分野の重点テーマを中心に検討を行います。
- また、新たなアイデア等を創造する場として、ゲストアドバイザー等を招いた「ラウンドテーブル」を各回の会議と並行する形で開催していきます。
- 併せて、別途設置する「川崎市総合計画市民検討会議」と検討内容を共有しながら、新たな総合計画の検討を進めていきます。



2. スケジュールについて

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 平成 26 年 10 月 27 日 (開催済) | 第 1 回会議 (策定方針、全国的な動向、市の概況) |
| 10 月 29 日 (開催済) | 第 1 回ラウンドテーブル (医療・介護連携) |
| 11 月 27 日 | 第 2 回ラウンドテーブル (社会デザイン) |
| 平成 27 年 2 月 1 日 | 第 2 回会議 (社会福祉、子育て支援・教育等) |
| 3 月 13 日 | 第 3 回ラウンドテーブル (都市拠点、交通体系) |
| 3 月 23 日 | 第 3 回会議 (まちづくり・防災等) |
| 4 月 (予定) | 第 4 回ラウンドテーブル (イノベーション) |
| 5 月 (予定) | 第 4 回会議 (産業・経済等) |
| 6 月 (予定) | 第 5 回ラウンドテーブル (自然共生・住民自治) |
| 7 月 (予定) | 第 5 回会議 (緑・環境・文化・住民自治等) |
| 7 月 (予定) | 第 6 回会議 (素案について、進行管理) |

3. 委員

- 会議は下記の有識者により構成されています。 ※座長・副座長以外は50音順

氏名（敬称略）	分野	役職等
涌井 史郎（座長）	ランドスケープ・環境	東京都市大学 環境学部 教授
出石 稔（副座長）	地方自治・地方行財政・コミュニティ	関東学院大学 副学長・法学部 教授
秋山 美紀	社会福祉・ソーシャルデザイン	慶應義塾大学 環境情報学部 准教授
垣内 恵美子	文化・教育	政策研究大学院大学 政策研究科 教授
中井 検裕	都市計画・交通計画	東京工業大学大学院 社会理工学研究科 教授
平尾 光司	地域経済・産業振興・イノベーション	昭和女子大学 学事顧問

4. 会議開催結果について

(1)テーマとゲストアドバイザー等

- テーマ「2025年に向けた地域包括ケアシステムの構築について」
- ゲストアドバイザー：田中 滋（慶應義塾大学名誉教授）
- 関係団体・事業者：関口 博仁（川崎市医師会理事）
中馬三和子（川崎市介護支援専門員連絡会会長）

(2)ゲストアドバイザーのご説明及び関係団体・事業者からの話題提供の概要

- ゲストアドバイザーとしてご参加いただいた田中滋慶應義塾大学名誉教授により、要介護者・要支援者に配慮した生活拠点・地域づくり、ケアマネジメント、介護等に関わる法人経営の重要性などについてご説明をいただきました。
- また、関係団体・事業者としてご参加いただいた関口博仁川崎市医師会理事、中馬三和子川崎市介護支援専門員連絡会会長から、本市における在宅医療と介護をはじめとする多職種連携の現状と課題についてご紹介をいただきました。
- さらに、事務局から川崎市における地域包括ケアシステムの確立に向けた取組の現状と課題について説明しました。



ゲストアドバイザー
田中滋慶應義塾大学名誉教授



関口博仁川崎市医師会理事



中馬三和子川崎市
介護支援専門員連絡会会長

(3)主な意見

***地域包括ケアシステムの構築に向けて必要な視点について**

- 地域包括ケアシステムの構築には、ケアマネージャー、ドクター、行政、そして、市民が、理念を共有することが重要
- 子どもから高齢者まで、川崎に関わるすべての人について、川崎で暮らすことができるよう共生支援が必要
- 地域ごとに文化、歴史、ボランティアの発達度は違うので、地域性への配慮やまちづくりの観点を踏まえることが必要
- 首長、医師会、事業者、団塊の世代など、それぞれが、地域包括ケアシステムの一員としての覚悟を持つことが必要であるとともに、それぞれに社会的役割が必要
- 川崎は、医療ケア関係の企業が立地しており、地域包括ケアシステムを支援できるという強みを持っている。
- 地域包括ケアシステムの構築には、区役所での縦割り行政をなくす必要がある。

***介護予防や、要介護者の悪化予防に向けて**

- 川崎には、多摩川や生田緑地など、さまざまな健康資源がある。自然、農地など地域資源を活かした健康増進のための仕掛けづくりが必要
- 介護予防に向けて、まだ元気な高齢者の外出先として、積極的に来たくくなるような魅力を備えるとともに、健康支援機能や多世代交流などの機能をもつ生活拠点が有効

***要支援者のための生活支援のあり方について**

- 地域住民等による生活支援の普及や体制づくりには、行政によるきっかけが必要
- 高齢者の権利擁護が必要
- 認知症に対し、地域による見守りの促進に向け正しい理解促進・教育が必要

***高齢者の住まいについて**

- 住宅が老朽化している地域でも地域内で住み替えが可能となるよう支援が必要
- リタイヤ層のワープステイ（一時的な地方移住）時の住まいを若い世代の住宅として活用することが有効

川崎市総合計画有識者会議

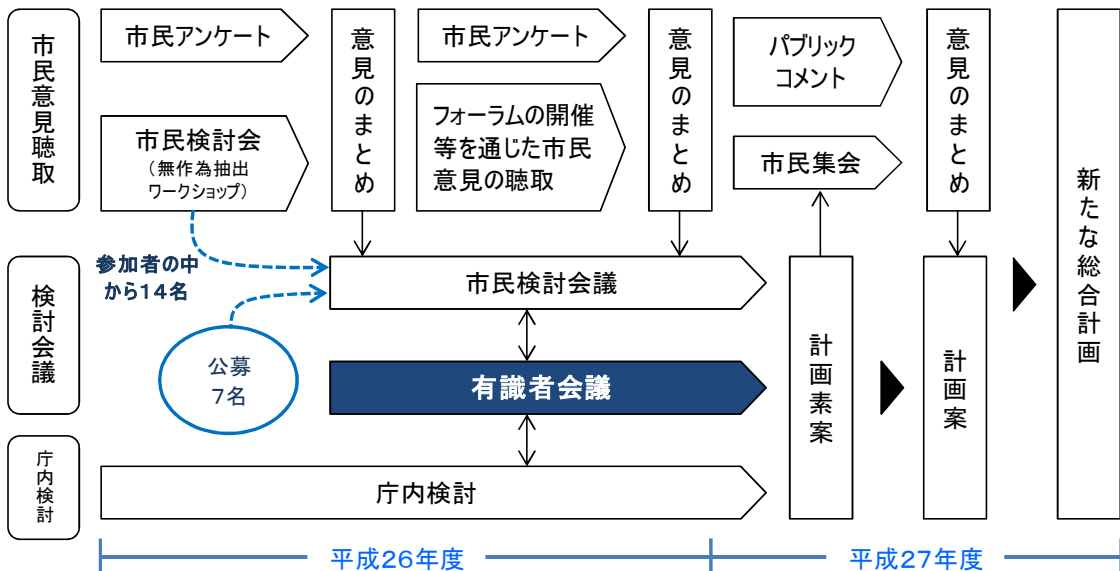
日時:平成 26 年 11 月 27 日(木) 18:00~20:00

会場:川崎市役所 第 4 庁舎 第3会議室

第2回ラウンドテーブル 開催結果概要

1. 「川崎市総合計画有識者会議」について

- これからの川崎の目指すべき方向性や取組を明らかにする「新たな総合計画」の策定にあたり、専門的な意見や助言をいただく場として、「川崎市総合計画有識者会議」をスタートしました。
- 「川崎市総合計画有識者会議」では、それぞれの政策分野の重点テーマを中心に検討を行います。
- また、新たなアイデア等を創造する場として、ゲストアドバイザー等を招いた「ラウンドテーブル」を各回の会議と並行する形で開催していきます。
- 併せて、別途設置する市民の声を幅広く集める取組である「川崎市市民検討会議」と検討内容を共有化し、市民の視点からの意見として活かしていきます。



2. スケジュールについて

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 平成 26 年 10 月 27 日 (開催済) | 第 1 回会議 (策定方針、全国的な動向、市の概況) |
| 10 月 29 日 (開催済) | 第 1 回ラウンドテーブル (医療・介護連携) |
| 11 月 27 日 | 第 2 回ラウンドテーブル (社会デザイン) |
| 平成 27 年 2 月 1 日 | 第 2 回会議 (社会福祉、子育て支援・教育等) |
| 3 月 13 日 | 第 3 部ラウンドテーブル (都市拠点暮、交通体系) |
| 3 月 23 日 | 第 3 回会議 (まちづくり・防災等) |
| 4 月 (予定) | 第 4 回ラウンドテーブル (イノベーション) |
| 5 月 (予定) | 第 4 回会議 (産業・経済等) |
| 6 月 (予定) | 第 5 回ラウンドテーブル (自然共生・住民自治) |

3. 委員

- 会議は下記の各分野に専門性を有する有識者により構成されています。

氏名（敬称略）	分野	役職等
涌井 史郎（座長）	ランドスケープ・環境	東京都市大学 環境学部 教授
出石 稔（副座長）	地方自治・地方行財政・コミュニティ	関東学院大学 副学長・法学部 教授
秋山 美紀	社会福祉・ソーシャルデザイン	慶應義塾大学 環境情報学部 准教授
垣内 恵美子	文化・教育	政策研究大学院大学 政策研究科 教授
中井 検裕 ※	都市計画・交通計画	東京工業大学大学院 社会理工学研究科 教授
平尾 光司	地域経済・産業振興・イノベーション	昭和女子大学 学事顧問

※は欠席

4. 第2回ラウンドテーブル（11/27）の開催結果について

(1) テーマとゲストアドバイザー等

■ テーマ「意識をデザインする」

■ ゲストアドバイザー：須藤 シンジ氏（NPO 法人ピープルデザイン研究所代表理事）

(2) ゲストアドバイザーのご講演の概要

- 川崎市とNPO 法人ピープルデザイン研究所は、平成 26 年 7 月に包括協定を締結しており、ピープルデザインの考え方（心のバリアフリーをクリエイティブに実現する思想や方法の考え方）を活用し、多様な人々が混ざり合うダイバーシティ（多様性）のまちづくりをめざした取組を進めています。
- NPO 法人ピープルデザイン研究所代表理事である須藤シンジ氏をゲストアドバイザーとしてお招きし、「ピープルデザイン」の考え方により、人々が持つ「意識のバリア」や従来の福祉のあり方をファッションやデザインのかで変えていく取組についてご紹介頂きました。



須藤シンジ NPO 法人ピープルデザイン研究所代表理事

(3)主な意見

***ダイバーシティ（多様性）の実現について**

- 意識のバリアフリー化を進めていくためには、障害者が格好よく社会に出ていけるようにすることが重要である。障害者に限らず、若い世代が、格好いい、欲しいと思えることが大事であり、違和感なく健常者と障害者が混じり合うことが重要である。
- ダイバーシティ（多様性）の実現には、Tolerance（寛容さ）が必要であり、それには、サブカルチャーへの文化的理解が必要となる。そして、サブカルチャーとテクニク（技術）がマリアージュ（結婚）していくべきで、また、今あるサブカルチャーが上質なサブカルチャーに転換していくことも重要である。
- このような取組は、部局横断で取り組むことが重要である。福祉の議論だけで留めておくと、小さくまとまって終わってしまう可能性がある。

***ライフスタイルを創造する産業の必要性について**

- 障害に関する課題解決には、May I help you?(お手伝いしましょうか?)の精神が重要で、加えて、イノベーションでそれを解決していこうという発想がよい。
- 川崎市には、イノベーションのベースとなる産業的な基盤が豊富にある。いわば、クリエイティブシティ（知的創造都市）と言える。例えば、車いすの部品、センサー、モーターなどのツールは、全て川崎市に存在する。新たな車いすの開発等による障害者福祉の向上が、新しい産業を作り出す推進力となり得る。
- これからの産業界には、ライフスタイルをクリエイト（創造）できるようなイノベーション、いわば「ライフスタイルクリエーション」が重要で、そのためには、川崎市の産業シーズ（事業化、製品化の可能性のある技術）をツール化し、システム化する仕組みができることよい。
- 現在は、大量に安価なものを生産していく量的充足希求社会から、市民のQOL（生活の質）を上げていくような産業形態への移行期にある。デザインと産業をうまく結びつけて成功事例を積み上げていくことが、多くの方にアイデアを理解してもらうために必要であり、マーケットで経済的価値を生むことで賛同者を増やすことができる。
- ライフスタイルの転換はパラダイム（ある時代を牽引する考え方）「シフト」というより、パラダイム「スイッチ」と言えるくらい、めざましいものでなければならない。

***東京五輪を契機とした取り組みの展開について**

- 福祉の議論になると、すぐ負担と給付のネガティブな政策論になりやすい。狭義の福祉施策だけでなく、健康づくりといったポジティブな政策への転換を図るべきであり、東京オリンピック・パラリンピックの開催が、それを確認する場になるとよい。
- 川崎市は、パラリンピック側の立場で、弱者が弱者でなくなるような魅力あるまちづくりを重視すべき。
- 等々力競技場をパラリンピアン練習場として利用できるようにし、パラリンピアンと市民が、世代や時間を超えて同じフィールドで共存できる場にするアイデアもある。
- 東京オリンピック・パラリンピックへの対応として、何に取り組み、どのようにして市の発展・展開につなげていくか、具体化すべき。ライフイノベーションも含めて、新しいオリンピックレガシー（遺産）の創造という点において、ピープルデザインの考え方と市の取組がマッチングすればすばらしい。